

『教育界』に連載された「教育茶話会記事」(2)

資料凡例

- 一、原文は縦書きであるが、それを横書きに直した。
- 二、縦書きの右・左傍線は下線に統一した。
- 三、本文の表記により記載したが、旧字体（異体字、関連字）で記載できない漢字については新字体に改めた。
- 四、複数字分の繰り返しを示すおどり字（くの字点）は、～と表記した。
- 五、合略仮名、変体仮名は、現代仮名遣いで表記した。
- 六、誤字、誤植、脱字と考えられる箇所には（ママ）と表記した。

『教育界』第四巻第拾壹號

教育茶話會記事（第七回）

小笠原 均

八月の教育茶話會は、神田錦町の三河屋に開かれた。今回は、今迄の會と趣を異にしてゐた點が二ツあつた。それは尾崎市長や、大田黒芝浦製作所長や、藏原ドクトル等の珍客が出席されて、大に會の光彩を添へられたことが一ツと、今一つは元來八月といふ月は、東京のものが地方に出て、地方のものが東京に入り込む時であるので、今回の茶話會も自然その影響をうけて、例月の出席と餘程違つた顔觸れを見たといふことである。先づ例に依て、出席者の氏名から掲げよう。

| | |
|--------|-----------|
| 東京市長 | 尾崎 行雄 君 |
| 芝浦製作所長 | 大田黒 重五郎 君 |
| ドクトル | 藏原 惟廓 君 |
| | 尾崎 鬼哭子 君 |
| | 清 崙太郎 君 |
| | 加藤 駒二 君 |

| | |
|------------|--------|
| 愛媛縣視學 | 岡崎要賢君 |
| 文學士 | 佐々醒雪君 |
| 宮崎縣高等女學校教諭 | 門井守次郎君 |
| 陸軍歩兵少佐 | 寺家村朔北君 |
| 沖繩縣小學校長 | 親泊朝擢君 |
| 東京市學務課員 | 吉田升太郎君 |
| 岡山縣上房郡視學 | 深井義之君 |
| 文學士 | 矢野太郎君 |
| 岡山縣小田郡視學 | 多賀定市君 |
| 東京市深川小學校長 | 鶴岡重治君 |
| 英文日露戰爭記々者 | 藤本武猪君 |
| 佐賀縣師範學校教諭 | 川口孫治郎君 |
| | 石川松溪君 |
| 千葉縣市原郡視學 | 宮山宜廣君 |
| 宮城縣岩沼小學校訓導 | 多川末四郎君 |
| | 曾根金川君 |
| 東京高等師範學校訓導 | 粟野冷佑君 |

一同食卓につくと、幹事の^{●●}金川君が、先づ開會の趣旨を述べた。それから一同晚餐を共にして、暫らくはそこゝに四方山の話が聞えてみたが、やがて七時と思ふ頃、幹事から、どうか有志の方々にテーブル、スピーチを願ひますとの注文を出した。すると藏原ドクトルが先づ起られた。

^{●●}藏原^{●●}惟^{●●}廓^{●●}君

私は此會の目的に就ては至極同感でありまして、會つて是に類する教育茶話會を三四友人等と共に發起しまして、度々會合し教育問題並びに社會上政治上に關する事迄も研究すると云ふやうな事をやつた事もありました、而して此會の目的と偶然にも符合して居りますから、誠に賛成の感に絶へぬのであります、今私が諸君に御注意を願ひたいと思ふ事は現代に於て非常に帝國主義又は國家主義と云ふやうな精神が發揚して來て居る、ことでありますが、是は尤も日本ばかりでなく、世界萬國が、其大勢に襲はれて居ることは事實で、已に、識者の間には注意を惹て居て御坐ります、國家主義若くは帝國主義の隆興に反比例して、人類上の觀念、申さば人道主義とか世界主義とか或は又廣く云へば文明主義と云ふやうな觀念が一方に於て衰退して居る形勢が瀝然として見える、世界思想の大勢は總して此の方向に於て奔騰して居る事實は、新聞雜誌其他の著書に充滿して居ます斗でなく、現に各國海陸軍の競争的擴張、帝國主義の殖民政策、利益上の保護政略等が、着々實行されて居るに顧みて明白であります、此の明白なる事實を能々靜察して、其原因及其成行を研究すると云ふ事は、一般學者の大に興味を感ずる處であるが、教育者に於ては更に一層大事な譯であるかと考へるであります。

さて此國家主義若くは帝國主義の觀念が、勢力を張て來た結果、自然と人間と社會が殺伐に

成て、武力權勢を崇拜し、又之を社會上國際上に實地活用することを憚らぬ事になりました。内に向ては人權自由を犠牲に供し、外に向ては正義公法は口實にして、利權擴張を楯にして猥りに蠶食併呑を以て外交骨子として、互に優劣を争つて居る譯であります。故に次第に個人の權利とか、文明の理想とか人道の感情とか道德の神聖とか云ふ様な世界的普遍的の大觀念や、活動が、衰退して振はぬ様になりました。言葉を換へて言へば、帝國主義の發達の結果、人權文明人道自治の精神が沈銷して、殺伐壓制蠻勇暴力の氣風が興起して、世界列國皆擧て此の流風に襲撃鼓動せられぬは無いのが現時代の真相であらうと思論ながら考へます。然るに斯の如き風潮が何處まで進んで、其反動が何時打返すことになるか、容易に豫測し難いことで御坐ります。併し人間が人間として本性を有し、且つ社會が人間の間たる性情の發現にして、天地萬有の一大通法たる Principle of going and Jaking^(ママ) 即ち交換主義が不變恒久ならん限りは、人性の本來に再三再四打還て、其根元の神音を人權自由人道平和文明正義公法博愛同情の諸調に迸出して、天には光榮人には幸福地には平和を謳歌するに至るべきは、何人も確信が出来ることゝ存じます。尤も此の様な理想に近き進境に達するには、中々一朝一夕の事業でないことは、三尺の童子も之を知るに難からず、亦一國民の力を以て、容易に企て及ぶべきでないと思ひます。即ち現時代の政治外交其他人道社會に對する根本的誤謬に屬する一切の思想慣習迷信を根本的に打破して人道の至義と公正の眞理に基きて、社會政治教育經濟を改造したるの後にあらざれば、不可能のことゝ思ひます。而して此大機運を洵治するの責に當るは、政治家學者教育家經濟家宗教道德家であります。就中政治家教育家は尤も大切の關係を保つものと存じます。故に今夕は、特に此問題を提出して、諸君の御注意を乞ふ譯であります。さて以上御話する如く人道人權の萎微して振はざる原因及び野蠻主義を帯びたる帝國主義國家主義の勃興せる理由を極簡単に申せば、人格を中心とした靈性上及天地萬有の實在上に關する形而上科學の衰微したることゝ、人間の眞價に對する確信の薄弱になりしことゝ相俟て、形而下即ち有形的學門の研究及び肉慾主義に發する處の利權の慾望的生活の膨脹とに由るは、一般の大原因に相違なしと信じます。併し此等の動機の外に直接に近代に於ける野蠻的帝國主義を挑發した二大原因があります。一はダルウイン氏の唱道したる進化論にして、他の一は獨乙の宰相ビスマルクの決行したる鐵血政略の成效にありと存じます。進化論の主張たる優勝劣敗適種生存の思想が、帝國主義蠶食主義に如何に偉大なる權能を附與して、其の發展を激成したか殆んど豫想の外であります。又斯學理上の基礎に一大動機を與へて益々帝國主義蠶食主義の氣焰を炎上せしめたものは、政治上の實際的方面に於けるビ公の鐵血政策の外交上に於ける成效は莫大の刺激と手本とを列國に提供して、列國は何れも枯野の放火的猛焰を以て蠶食主義帝國主義を擴張して今日に至るまで、日も亦足らず競争して居ります。

而して此背人道的吞慾主義を尤も深刻に代表して尤も獍猛に活動したるは、吾人道正義の皇軍の爲め海陸に連戰連敗したる露西亞帝國たることは疑なき處であります。是に次では獨佛二國尤も此蠶食主義を代表して居ります。英米二國の如きは何れもテモクラシーの主義に基き、文明人道を治國の根本として居るが故に、國民の多數は蠶食的帝國主義に同情を表しませぬなれども、此二國と雖ども稍や此野蠻帝國主義の惡潮に波動せらるゝ傾あるは、大勢止を得ない事とは言へ、

人道平和の一瑕瑾として遺憾至極であります。

最後に我國を顧みるに、過去數千年は問はず、明治の大謨に於て、人道文明を理想として正義公道の世界政策を確立して、茲に三十年有餘年が間、政治に教育に外交に通商に皆な此大主義にて押し進めて來たのは、萬國民が共に賞讃する處で、今後も此人道正義の大道を一直線に猛進するは、學國一致の國是國策である以上は、政治家の經濟家も宗教家も學者も一般國民皆此の國民的にして世界的の理想に向て努力せねばならぬが、格別に教育家は此の理想と主義を呑込み、國家を示導し、殊に青年國民を教化涵養するの手段と、精神を誤らぬ様に心掛ぐるの最大肝要の事と、常に私^(ママ)は深く感じて居るのであります。故に我教育に従事する諸君は勿論、其間接直接國民の精神氣風思想生活に感化する人に向ても、希望する處は猥りに世界の野蠻的惡潮に泥酔して、没理の背人道的蠶食的の國家主義又は帝國主義に惑溺して、此輩の後に瞠若たる陋態を演ずることなく、常に帝國の博大なる人道と正義に基礎する處の大主義大方針に則り、自己の獨立自由尊嚴は勿論、常に天下に先つて人道文明平和幸福の先驅者と成りて、世界の進軍に貢獻することを志さざるべからずと切望する次第であります。特に、帝國教育社會の代表者たる諸君に囑望すること深大であります。尙ほ野蠻的蠶食主義の帝國主義の外に、正當なる帝國主義に就て、尙又現今征露の精神とに顧みて、大に帝國の教育を論じ度いと思ひますけれども、時間に制限がありません故に、聊か前條御話したる大畧を以て今晚は御免を蒙ります。

大 田 黒 重 五 郎 君

私は少々教育家の方々に希望する事がありますが、只今承る處に由れば、多くの方々の御話があると云ふ事であつて、隨て短かき時間より與へられぬのであるから、私の意見を十分述ぶる事は出来ぬのであります、それ故今晚は只其一端を申上げる事と致しませう、

それは如何なる事かと云ふと、中等教育の事であります。現今の中等教育と申すのは、中學校に於て授ける課程であつて、小學校の課程を終了したるものが、高等專門學校或は大學に進むべき準備の一階梯として學ぶべき課程である。若し大學に入らんとするものは、此中學及高等學校の課程は是非共踐まければならぬ順序となつて居る。それ故資力が續いて漸々進んで高等學校、大學と順次に行く事が出来るならば、是程結構な事はないが、^(ママ)苦し之れが中學だけで止めたならば如何であるか、是が私の今晚御話し致したい點である。中學を卒つて後ち、高等の教育を受けずして、其の儘居るものが全國に幾人あるかは統計を取つて見ないから能く分らぬけれども、兎に角大分あるやうである。是は單に教育の普及とか進歩とか云ふ點から見れば、小學より中學、中學より高等學校と云ふやうな譯で、小學で止めるよりは中學に入るもの多ければ多い程、慶賀すべきであらうけれども、社會の幸福と云ふ點から觀察したならば如何であるか、素より小學校を終つた丈けで其の儘居るよりは中學を終つて居た方が宜いであらうけれども、是は自然年齢に於て、先づ大體五ヶ年の差がある、此五ヶ年間に他の纏つた學術技藝とか或は實務に就くならば、決して二十歳前後に於て衣食の爲めに煩悶するやうな事はあるまいと思ふ。然るに五ヶ年にて中學を卒業したるものが如何であるか、其の學びたる學問が少しも纏つて居らぬから、社會の需要に應ずる事が出来ない、隨つて是等多數の中學卒業生は何もする事なく、只衣食の道を求

むる爲めに煩悶して居る。其の結果我々如きものも是が餘波を蒙つて居る。何かに使つて呉れろと云ふて履歴書が續々來る、それを見ると多くは何中學卒業とか、或は何學年修業中事故退學と^(ママ)か大概極つて居る、是等の人々が見えず知らず我々の如きものに迄依頼して來る處を見れば、餘程衣食に窮して居るだらうと思ふから、何んとか職を與へたいと思ふけれども、何分にも仕事を與へる事が出来ないのである。小學程度を終つた位の小供ならば、本人も其の積りであるから、丁稚でも小僧でも満足して働いて居る事も出来るだらうけれども、中學を終つた頃には、二十歳前後になるから、餘り下等なる仕事とか或は小供のするやうな事は世間に對して見苦しいとか、體裁が悪いとか或は斯う云ふ仕事は感服しないとか、寧ろ其の方には發達して居るから、丁稚や小僧には向かぬのである。無理にやらした處が永く勤まるものでない。それでは他に何か適する職があるかと云ふと、中學の事であるから、別に何も纏つて出来る譯でもなし、殆ど困るのである。殊に此の時代二十歳前後は、人間の變り目であるから、善良なる方面に變るなら結構であるが、斯う云ふ無職業で衣食に窮し、其れが爲め煩悶して居るものが、善良の方面に變ずるだらうと云ふ想像は付き悪いのである。斯う云ふものは何れ社會の厄介物であると思ふ。故に私は中學の教育其ものが何にも悪いとは言はぬ。高等の教育を受ける爲めには、是非共階梯として、一度は踏まなければならぬから、財力其他の點に於て許すならば、ドコ迄も進むが宜いであらうが、今申す通り中學にて止めなければならぬと云ふ事情があるならば、寧ろ中學に這入らずに他に方法を求めた方が宜からうと思ふ。然るに世の多くの父兄は、セメては中學だけでも踏まして置かぬと可哀さうであると云ふて、財のあらん限りを費して中學校に入れるやうである。是は親の慈悲心から起る事で、其の精神は誠に嘉すべきであるが、其の結果に至つては聊か感服せぬ點がある。親の言ふ其のセメての中學は、其の子に取つてドレだけの幸福になるか、餘程考へものであらうと思ふ。教育者に御相談する處は、此處である。教育者は多くの子弟を教育するも、百姓は田地を耕すも、或は官吏が行政を行ふも、是皆な社會の幸福の爲めでありませう。然るに教育が進歩したる結果、世の中の厄介物^(ママ)、即ち役に立たぬ人間を多く出すと云ふ事になると、社會の幸福に向つて進むのではなく、寧ろ反對の方向に進むやうに見える。若し此儘にして置いて、段々役に立たぬ分子が殖えたならば、健全なる社會と云ふ事は出来ない。是は教育者なるものが、社會の事情、其の國の富の程度、又は其の時代の要求する學問は何んであるか、是に就ては現在如何なる教育を施すべきものであるかと云ふ處迄、考を及ぼして貰ひたい。只教育が進んだ處が、社會の事情に合せず、世界の大勢に背いたならば、折角骨折つて教へ、又教へられたるものが、何にもならぬ事になるやうに見える。此點に教育者が着目し、若し現今の教育制度の改良を要するならば、又其の方に力を盡して貰ひたいと思ふ。素より制度の事に就ては、教育者より當局に於て考案もあらうから、敢て立入るには及ばぬが、兎に角我々の如きもの迄も、其の餘波を蒙つて居るから、先づ第一に教育者の方々に御相談申した次第である、マダ之に就ては申し上げたい事は澤山あるけれども、時間を制限されて居るから、先づ今晚は是れだけに致して置きます。

● 佐 ● 々 ● 醒 ● 雪 ● 君

私は^(ママ)太田黒さんの御話に就て、私の考を聊か申述べて見たいと思ひます。只今の御話中、藏

原さんの御説と^(マ)大田黒さんの御説と比較して見ると、藏原さんの御説では、今の教育は世界的にしなければならぬ、一般的にしなければならぬと云ふ事のやうであります、大田黒さんの御説では成丈け格段なる學問でなければならぬ、他の話で申しますと今流行つて居る實業教育に向はなければならぬと云ふやうな意味に伺ひました。是は實際今日の教育界が要求せられて居る二種の注文であつて、そのどちらの要求の聲が大きいかと云ふと、實業的教育の要求の方は、教育家中でも最も老功なる方々の唱へられる所でもあります、又文部大臣なども何處に行つても實業教育奨励の演舌をして居るのみならず、教育家以外の人々は、皆實際に有益だとしてこの傾向を歓迎して居るやうであります。併し教育家たるものは、俗衆の傾向の外に立つて、却つて之の反對の事に着目せねばならぬと思ひます。一體箇人の生活の問題と、社會又は人類の爲めの教育とは、少しは齟齬する點もありませう、併し國民教育、又は普通教育といふのは、文字の示す通りの一般的教育であるべきであつて、決して特殊なる職業の傳習、即ち衣食の資金を得るの方法を授くる所ではない。然るに若し一個人の生活の問題を土臺として教育の方針を定むると云ふことになると、學校教育は、宛も年季奉公又は職工見習と同じものになるのではありますまいか、かうなつては國民教育の考も亦あはれ至極のものといはねばなりませんまい。

元來教育は人格を作るものである、教育は人間と社會即ち自己と社會との關係を自覺せしむると云ふやうな一般の教養を目的とするもので、勿論、同じ年限を以て中等教育を受けたものと、特殊なる實業教育或は職業の練習を経たものとを比較して見るならば、初めて社會に出たときには、後者の方が安樂に衣食し得るでありませう。例へば今は八歳か九歳の時より耕作の手助をするか、桶屋八百屋の小僧をするとすれば、十三四になればどうにか一升の米代を得ることが出來ませう、併し尋常小學の卒業だけではこれも覺束ない。だから夜學の速成工業學校などの卒業生は、初めて社會に出た時に直ちに役に立つに違ひないが、若し當時全く役に立たない中學卒業生を同じ仕事に従事させて見たなら、どうでありませうか。半年一年を経つ中には、教育の完全な方が却つて巧みになるに違ひないのである。若しさうでないならば教育なるものゝ意味はないのである。私は日本の社會が中學教育を要求しない位な程度であるとは考へませぬ(勿論車夫や鍛冶屋の手間取には中等教育は不必要だが)。併し今日の中等教育には、大田黒さんのお説の通り、高等教育の準備教育と誤解して居るものがある。豫備學校的の教育が實社會に有功なものとは勿論信ぜられませぬから、かゝる中學の卒業生はなる程中間驛で下車した旅行者に譬へ得るでありませう、唯正當な中等教育を終つたものは、必ず社會上に十分な活力を有せねばならぬのであります。

丁度、中學教育に對する大田黒さんの非難の如き非難が、今大學に對して起つて居る、大學の卒業生が飯が食へぬ、新學士は殆んど學資の月額位の月給にもありつき兼ねて居るのは事實である。併しこれが爲に大學教育の効果を疑ふのは所以のないことでありませう。今から八九年前までは大學を卒業した丈けで相當の収入があつたものであるが、是は秩序の定まらぬ時であるから社會が新知識に渴て居て、事務の練習如何を思はず、少し學問さへあらば使用したのである。殆んど過分の月給を拂つたのである。併し一旦秩序が立つて學問の價値が定まつてからは、一般の

學問をしたるものも、實務の練習をして仕事が出来ると云ふに、直には出来ぬ、矢張一年間は試補として實務を練習するのである。さう云ふ風であつて學問をしても實務は何れ練習しなければならぬけれども、大學を卒業したものは、實務練習の後ち幾年間かを経れば、他の程度の低い學校を出たものよりは、餘計に役に立つ事は明かに分つて居る。従つて教育の十分なるものは社會的地位に速に進むことは事實である、若し教育家が斯の如き一般の教育を粗にして學校中に實務の練習を企てるやうなことがあつては、實に教育の進歩を阻碍するものであつて教育の爲めに最も悲しむべき事と思ふ。總ての學校の卒業を直ちに飯を食ふ方法とばかり考へて居つては、人間としての人格一般の自覺を作る事が出来ないであらうと思ふ。私は此事に就ては常に『教育界』にも論じて居ることで、今日始めて思ひついた事ではありませぬが、只今又大田黒さんの御話を伺ひまして、私の所信を反復すべき好機會と信じますから、一言清聴を煩したわけでありませぬ。

鶴岡重治君

私はつひ此の間辭令を受取つて、この光榮なる帝都の初等教育に従事することに成つたものであります。私は雑誌『教育界』を講讀して居りますが、殊に面白いと思ふのは、教育茶話會の記事でありまして、是は喜んで讀んで居りますが、併し只雑誌の上で讀んで居るだけでは、満足が出来ないので、諸君のお仲間入りを願ふやうに成つたのであります。さて立つた序に、聊か自分の考を述べます。彼の日露戦争に就て色々と言ふ方がある。或る方が戦勝の原由は、我が國は開闢以來三種の神器が國民を教育して居るからであると云ふて居る。又或は現今の國民性が戦勝の原因となると云ふて居る。或る人は又軍隊の教育が戦勝の原因を爲して居ると云ふて居るが。私の考では、戦勝の原因としては、軍隊教育を以て主なる原因と思ふて居る。勿論普通の教育の結果たるを疑ふものではないけれども、其の大原因となるものは、嚴格に規律的に 天皇陛下の爲めであると云ふ風なる教育を軍隊で加へて居るから、是が主なる原因になつて居ると思ふ。軍隊教育を受ける前に、ドウ云ふ事を腦髓に入れるかと云ふと、芝居のやうなものはドンナ邊鄙な處にでもある。又ドンナ邊鄙な場所の小學校でも 天皇陛下と云ふ考を頭に刻み込む事が出来る、そこでドンナ田舎でも芝居では忠臣蔵とか眞田三代記と云ふやうなものがあつて、是は田舎の人も都會の人も好んで見るのである、斯う云ふ風に武勇の話や 天皇陛下の御威稜と云ふ事は、小さい時から養はれて居るから、それが段々軍隊に這入つて、天皇陛下の爲めに盡すと云ふ考を持つて、尚ほ進んだる教育を受けて居るから、ドウしても立派にならなければならぬ筈である。近頃戀愛小説が排斥されて居るが、併しさうなると太閤記や眞田三代記などの武勇傳と云ふやうなものも、自然なくなりませぬかと思ふ。さうすれば随つて斯う云ふ風ものは跡を絶つとせば戦勝の原因も薄らぐ時が來やせぬかを恐るゝのである。このことは、教育者が眞面目に考へねばならぬことゝ信じますから、諸君の御高見を伺ひ度いと思ふのであります。

岡崎要賢君

一言申し上げます。二十七八年の戦役の後ちに、吾邦の教育は俄かに勃興し來まして、色々なる

變化もありましたが、此度の日露戦争の後ちにも、教育上に非常なる變化のある事は、豫め分つて居る。故に戦後の教育に就ては、今日から我々教育に關係するものが、豫め考へて置くべき事柄と思ふ。それで、小學校教育即ち國民義務教育を六ヶ年にするると云ふ事は、數年前の問題であつたが、此の義務年限を六ヶ年にするると云ふ事に就ては、二つの條件があると思ふ。一ツは學校の名稱の變更の事である。義務教育を六ヶ年に短縮する事になると、小學と云ふ名稱を變じて國民學校と謂ふ方が宜いと言ふて居るが、此小學校と云ふ事は、歴史のある事である。然るにも拘らず、今爰に其の名稱を變更して、國民學校とすると云ふ事は、其の意のある處を知らぬのである。或は申しまする、國民を作る處であるから、國民學校と改稱するのは適當であると。併し何も小學校の教育ばかりは國民教育でないと思ひます。それから次に今日の義務年限八ヶ年に對する其間の差の二ヶ年は如何にするか、或は今日言ふて居る實業補習學校と云ふものを以つて補ふのではないかと思ふて居るが、兎に角八ヶ年と云ふ事は歴史ある事である、吾邦の小學教育に於ては、八年を要すると云ふ事を認めて、八ヶ年を以て義務教育と認めて居つたのである。明治五年吾邦は小學教育を八ヶ年とする事に定めたが是は決して長くないと思ふ。外國でも八ヶ年を以て義務教育として居る處がある。ドウぞ教育のことは別けて徒らに益なきの變更をしないやうに致し度いと存じます。先づ是丈けを述べて御免を蒙ります、

尾崎市長は中途急用が出来て、一言の挨拶を残して退席せられたのは、遺憾であつた。

此の時、時針は既に十時を指して居たので、尙ほ大演説を試みんと待構えてみた面々の多かつたにも係はず、演説は見合はせとなつて、餘興として一龍齋貞山の講談が始まつた。演題は忠臣藏の一節で、彼は拍手喝采の間に演了した。こゝに於て幹事が閉會を宣告して、教育茶話會第七回の幕が閉ぢられた。

序に余の筆記中、或は演説者の主旨を誤つてをる點があるかも知らぬ。この段は平にお斷りを、申して置く。

『教育界』第四卷第拾貳號

教育茶話會記事 ((第九回))

小笠原 均

第九回教育茶話會は、神田錦町の學士會に於て開會せられた。今回の出席者は左の十三名であつた。

| | |
|---------------|-------|
| 東京府立第一高等女學校教諭 | 市川源三君 |
| | 石川松溪君 |
| 東京府立第三中學校長文學士 | 八田三喜君 |

| | |
|-------------|--------|
| | 大井民吾君 |
| 文學士 | 小谷重君 |
| 東京高等師範學校教授 | 棚橋源太郎君 |
| | 曾根金川君 |
| 文學士 | 矢野太郎君 |
| 東京市小川女子小學校長 | 松田茂君 |
| 『英文日露戰爭記』記者 | 藤本武猪君 |
| 文學士 | 阿部莊二君 |
| 文學士 | 佐々醒雪君 |
| | 樋口勘治郎君 |

豫定の正六時間になると、一同食堂に入つて先づ晚餐を共にした。此の間東京の騒動話が出る、地方の旅行談が出る、構話條件の批評が出る、戦後經營の大風呂敷が出る、得意談が始る、失策談が起る、話はそれからそれへとつゞいて、時に大笑の聲が聞えるからと思へば、また眞面目な話に立戻るといふ有様で、威厳あり興味あるさすがは教育者の會合であると思はれた。

食事が終はると、一同第二號の西洋室に集つて、思ひ〜の椅子について、圓形に坐を占めた。すると樋口君が起つてかねて調査中の『小學教員待遇問題』について委員會の成案を報告せられた。それから修正的意見が續々顯はれたが、大要左の通りに歸着したようであつた。

小學教師の待遇問題

(括弧内の事項は希望に屬すること)

- 1、修養に要する資本
年限
金 錢
官公費
私 費
- 2 俸給の支辦法
國庫支辨 (地方支辨) 町村支辨
- 3、教師の勞働
危險 (壽命) と興味
勞働時間
- 4、教師に必要なる生活費
『教育界』雜錄欄記事「小學教師の生活費」參照
- 5、師範學校募集人員と應募者との割合
- 6、轉職者の割合

十箇年以内轉職者の割合

他に轉職せるもの

他より轉職せるもの

7、發達のみち

法令上俸給の兩極點

法令が許可したる進歩の路

法令上市町村の義務額

8、有形的待遇

俸級 年功加俸 住宅料 手當 旅費 慰勞 療養費

雜收入 退職給 恩給 遺族扶助料 (汽車汽船割引) (納税の免除)

9、無形的待遇

官(位) (勳章) 感狀 徵兵 義務年限 選舉 (被選舉權) (政治上に於ける束縛解除)

10、比較すべき職業

各種教員

軍人 下士

實業者

甲種工業學校卒業生

甲種農業學校卒業生

甲種商業學校卒業生

神官

僧侶

巡查

判任文官

開業醫

11、外國との比較

獨 佛 英 米

尙ほ、本案は前調査委員の市川、吉田、曾根、松田、佐々、御園生、樋口の七君の外、棚橋源太郎君は加はられて、再調せらるゝことゝなつた。尤も本問題は、先づ調査事項を定め、然る後諸調査に取掛つて、最後の解決を試みやうとせらるゝのであるから、本問題の愈々解決せらるゝのは、尙ほ數回の研究を待たねばなるまい。付ては余は、世の諸君子が各々その高見を委員諸君に迄寄せられて、以てその研究を助けられんことを望むものである。

會は五分演説となつて、棚橋、樋口、小谷の三君が順次起つて次の演説を試みられた。

棚 橋 源 太 郎 君

私は今年鹿兒島外三縣の夏期講習會に行つたが、一つは維新の豪傑の出した處を見やう云ふ考であつたが、それからモウ一つ見て來やうと思ふて行つた事があるから、それを只今御話しをしや

うと思ふ、それは何かと云ふと其筋から學校園の事を研究して出せと云ふ事であるから、歐羅巴でやつて居る事は書物等で見て其大體を知る事は出来たが今一つ知り度いのは地方の實際である今度見て來やうと思ふたのは即ち此點であつたそれで旅行先き至る處學校園の事を見聞て來たのである、學校園については既に私は六七年前からまだ西洋の方の事は調べぬ前きから必要な事と思ふて居つた、それは理科の材料を供給したり、實地を觀察させたりする事から學校園の必要を感じたのである、それから段々やる中に尙他の見方からも其必要を感じて來たのである一體小供は園藝を好むもので田舎の小供は申すに及ばず都會の眞中にあつても同様である緣日などに行つて草花や木を買つて來て喜んで花壇に植ゑて居る、故に斯ういふ事は彼等の自然の心理的要求である學校では即ち其自然の要求を満足せしむるために園藝を課するの必要があるそれでこれまで學校の庭園の片隅で色々な植物の栽培をやらして居るが植物ばかりでは面白くないと云ふので先頃^(ママ)から兎や雞を飼はして居る又蜜蜂をも飼はして居る又或組では蚕も飼はして居る但しそれは菓子箱に一杯位に過ぎない兎に角養蚕もやらして居る、それから毛虫をもオタマシヤクシなども飼はして居る是等は皆學校園に關聯して居る仕事である、歐羅巴では學校園に果樹園、蔬菜園、植物園^(ママ)、樹園、葡萄園、草花園、農業試験地などの諸區劃を置いて居る、今回見た中で滋賀縣^(ママ)の甲賀郡水口町の女子實業補習學校同高等小學校では頗る大袈裟にやつて居て甚だ参考になる事が多いと思ふて見て來た、其他香川縣でも一ヶ所参考になるのを見て來たそれは三豐郡の和田村と云ふ所の學校園で果樹蔬菜草花の栽培から育樹養魚も行つて居る吾々共一行の同校へ見に往つた時には校園の池の鯉を上げて吸物を作つたり校園の收穫物で三四品の料理を拵へたりビールを抜いたりして御馳走になつた此の料理は皆女生徒の手に成つたものであつた小供の作つた物を小供が料理して呉れその上同校生徒の少年音楽隊の吹奏まで聞かせられて甚だ愉快に感じたのである兎に角今後は果物の要求などは益々増すことゝ思ふから果樹の栽培は盛にやりたいものである今日は果樹は大概手入れをしないで殆ど野生の有様である随つてそれ等に結實した果物も甚だまづい、蔬菜の栽培についても同様である林業についても農商務省や府縣で盛に植林樟樹の栽培などを奨励して居る、學校は宜しく林業家や園藝専門家と連絡を有つて校園を經營すべきである私が見て來た様な立派な學校園は恐らく一縣に一ヶ所或は五六縣に一ヶ所位しかない若しも斯ういふ様なのが全國に普及したならば兒童教育の上は勿論地方の農藝を發達させ農家の副業を盛にしたり森林を良くしたりする上に效驗が少くないと思ふ我が文部省にも大に校園を奨励する考があるといふことでもあれば今後は特に此點に注目して戦後教育の主題目たる實力養成の一助ともなるやうにしたいものである。

樋 口 勘 治 郎 君

私ですか。飛んだ順序の飛火でこまりますが、私も關西の方に丁度三ヶ所に行つて参りましたから其見聞の儘を御話して責をふさぎませう。最初呉に参りました。先づ其會を周旋した人に就てチヨツト御紹介したいと思ふ。會長は澤原俊雄と云ふ多額納税議員であります。親も郡長をして居つた事もあり、同じく貴族院にも出たことのある人の中で中々の人物である、是等の人々親子三人が講習會の講義を聞きつゝ何くれとなく周旋せられ、此會の費用が足らぬ時には寄附する

と迄に骨折つて居られた。ア、云ふ人達が地方にあつて教育に盡す事になれば何事も行ひ易い。吳のやうな軍事の爲めに發達した街で、今日でも毎日二戸、三戸、戸数が殖えるのは皆な戦争に就て繁昌するのであるが、かういふ所にまで教育の熱心家が出て、時局中にも拘らず、講習會まで開いたといふのは、喜ぶべき現象といはねばなるまい、副會長の佐々木と云ふ人も澤原氏に劣らぬ熱心家で衆議院に野心のある人であるが單に此會に盡力したのみでなく、平生でも教育には熱心で自ら高等女學校を建て、毎月數十圓の不足を補助して居る。會員にも天下に報告すべき人が多かつた。其の一人は香川縣三豊郡の石井定彦と云ふ人である、此人は一度議員にもなつた人であるのに、其の後久しく三豊郡の一小學校長として孜々其の職務に勉めてをる。昨年香川縣の講習會であつた時の話に教育會の事を刷新せむためには教員の團體を作らなければならぬ。個人個々は立派になつても全體の組織が立派にならねば事業があがる筈がない。今日は自治制が行はれて、地方自治が發達して行く外に職業的自治が起つて行くやうである、地方を一ツにして居るものが利害を一ツにする其の利害を自ら治める如く、全國の職業を一ツにして居るものが亦其の利害を共にする點を自ら治めると云ふ風に職業的自治が起つて來た。代言人組合、醫業組合、茶業組合などは其の例である。教員にも今日の如く研究調査を目的とする教育會の外に教員會が起らなければならぬといふことを二人で話しあつて、私は同氏が嘗て香川縣で、此の如き結合をつくりかけた時の書類などを持つて來てをるが、此人は又吾等の講義を聞直しに來た。其の熱心實に感服の外なしである、講習中三笠艦が着いて居つたから是を見たいと云ふ事を申した處が、それは出來ぬが艦長を訪問すると云ふ事で來たら宜からうと云ふ事で、吾等は此の世界の歴史を左右した大軍艦を見ることが出來た。世界を震動させた東郷大將の椅子に腰をかけて、ウキスキーの饗應に預つた時の感は言語にあらはせぬ。數十人の血布、敵彈の破片、艦長を負傷せしめし手すりの棒、長官を危からしめむとせし敵彈の破壊力、見るにつけ聞くにつけ、本艦奮闘のさまを想像せしめた。見をはり、聞き終つた後に感じたことは何かといふと、綿密なる注意と、精密なる理學の應用とが天^(ママ)裕以上のことを爲したに相違ないといふことであつた。其後ち戦利艦アリオールの方を訪問した。三笠艦に比べるに数十倍の損害である。船側には二坪もあらうと思はれる大穴があいて、ズツクで塞いである。砲塔でさへめりこんで、いかんで、砲が動かなくなつてある。十二インチ砲が半分に分れて居る、煙突などは蜂の巢のやうである、實に日本軍の威力は非常なものであつたことが譯る。是ならば命の惜い以上は降参も仕方がなかつたらうと思はれる位であつた。又こゝで陸海軍が向ふ見ずに自分等の便利丈けを押通す、亂暴でも無理でも構はずやる事の一例ともいふべきことを見た。鎮守府を設ける時吳の山腹に退去させられた村がある。其の村が始めは僅かに阪^(ママ)を降りさへすればわけなく一直線に吳市の方へ出られたのを、鎮守府が次第に擴張せられて、其の通路をたたれて遠廻りをせねばならぬ、而も峻しい坂に登らなければならぬ、ことになつて甚だ不便である。吳市は爲めに十何萬圓掛けてトンネルを掘ることにしたさうである。吾々も其の坂路を上つて見たが、なる程羊腸なる折れ道で、雨天などには女子供などには通行も困難であらうと思はれた。ついで鎮守府の方には、人民に此んな不便をさせなければならぬ必要があるかと見るに、吾々が一見した所では斷じて無い。もとの通路の邊は今も

原になつてある。こゝへもとの通りの道を存して、其の兩側へ木柵をつくつて、鎮守府を二分しきへすれば何でも無い、擴張された一方には決して、此の道によつて他の部を隔離せられてはこまるやうな建物は無いといふこともたしかに聞いた、外から見ると随分亂暴な話してであるが、さて海軍の側に立つて云へば、何事も此の位の勢でなければなるまい、秘密を保證し、危険を豫防するのに、此の位までがん張つて事をしなくてはなるまい。教育の仕事も此んな氣込みが必要である。他の便不便を顧みぬといふ事其れ自身はよく無いとしても、外が吾の便否を考へて呉れぬときは、此方も少し極端な主張をしなければ、中庸の處にまとまることは出来ぬ道理でありませう。某縣の師範學校の如きも、舊城内にあつて陸軍省の御用地を借りて居る、運動場の一方は澤山の古木がある中に、運動其の他に邪魔になる若干本の樹があつて、之れを伐ると眞に學校の都合が宜いのでありますが、陸軍省はどうしてもきらせぬ。文部もどうすることも出来ぬといふことであります、總ての方面が斯う云ふ風であらうと思ふ。戦後の經營に於て、いよ〜平和的戦争にうつる大事の舞臺に於て、陸海軍省と文部省との相撲が、又此んな調子でなければよいがと思はれます。

次に大阪で感じたことを申しますと、先刻も食堂で申した通り、紳士の定義が金の多寡で極まると云ふやうな所であるからして、今迄は講習會などを開いても、澤山の人が集まるまいと思ふ考へより、講習費の如きも取らずにやつて居た、其れでも、二三百人より出て來ぬ、殊に本年は大阪府教育會の事業としては始めて開いたのださうだが、教育會の意見としては會費を始めてとることであれば、三百人は集まるまいと思ふた所が、夫れが六百七十人も集まつて、實際机の置く所に困つた位である、夫等のことで彼の商業の外には不熱心であつた邊でも教育と云ふことの大事と云ふことは考へついて來たことが分かり、又同時に關西は此の時局に係はず經濟状態が宜いであらうと想像する材料になる、年々人口二萬を増す大阪を始めとして彼の地方は非常に景氣が宜く關西は關東の及ばぬ状態にありました、大阪に於て尙ほ一ツ申したいことは、東京などよりは教育會が社會と結びつかなければならぬと云ふ考へが十分に了解されて居るかと思はれる、教育會と云ふものが只教員だけ集まつて居る會ではいかぬ、實業家も、政治家も這入らなければならぬと云ふ所からして、銀行家の小山健三だの前の知事の菊池侃二など云ふ人も盡力して居る、又知事が教育會長になつて居つても、熱心に盡力するものは少いが、彼方の高崎知事は講師の所まで禮に來ると云ふ位で熱心に世話をして居る、其の教育家と政治家、實業家と接近して居る状態が面白く見えます。尙ほ彼所の毎日新聞の記者岡田氏、前に朝日新聞の記者をして居つた清水氏なども其の役員の一で、教育會の雑誌の編輯は此の毎日新聞の教育記者がして居るやうな状態で、眞によく色々な方面と接近して居ることを認めました。次に鹿兒島に行きました、此所は丁度本年棚橋君も行かれたのでありますが、随分道は遠し、苦しい。其の事は前から想像して居たが、マア想像以上であつた。併し私も風俗習慣の違つた所を見たいと思ひまして、出かけて見ました。彼の地に參つて先づ健兒の社を見たいと思つて、いろ〜としらべ、又様子も聞きましたが、モー今では格別の變つたことがない、只學校に出る生徒の復習、夜學の監督を、社の長となり先きに立つ人が任じてやつて居る、殊に多くは小學校教員が中心となつてやつて居るやう

な有様に認めたのであります。尚ほ詳しくお話もいたしたいのですが、餘り長くなりますから、此の邊で止めて置きます。

● ● ●
小 谷 重 君

今日は小學校教員待遇問題の研究があると云ふことで、其の爲に時間が費されるであらうと思つて、何の用意もありません、只指名せられてボンヤリと起立したのでありますが、若し強いて言はねばならぬと云ふことならば、支那のことでも申し上げるか、(私は此の間四ヶ月ほど上海に行つて居りました。)或は又私が歸つてから後ちの事であれば、此の間からの騒動、即ち此の騒ぎが教育に對する關係如何と云ふやうなことでも申上るより外はありません、併し後の問題は動もすれば議論過激に涉り、累を曾根金川君に及す虞れがありますから、簡単に支那のことに就てお話をしようと思ひます、夫れも支那の複雑した事柄に就ては、ナカ〜二年や三年では其の真相が分らないと云ふことでありますから、ウツかりしたことを云ふと、ヒドイ目に逢ひます、殊に支那に行つて居る日本の教育家などには大抵此の『教育界』雑誌を配附してありますから、いゝ加減な法螺は吹けません、そこで私は只上海で見ただけのことを、只大體の有様をお話しようと思ひます。

御承知の通り上海には世界各國の人民が居りまして、何でも十何ヶ國の外國人が居ると云ふことであります、其の中で第一は葡萄牙人、英吉利人、次は亞米利加人、佛蘭西人、日本人、獨逸人などで、無論支那人は最多數を占め、十の九以上もございませう。日本人はマー四千人位居ると云ふ調べであります、他の國民と比較して葡萄牙人、英吉利人には數の上で劣りますけれども、他の外國人中では日本人は多い方に回つて居ります。其の多い日本人が上海に於てドウ云ふ風に見えるか、ドウ云ふ種類の人が行つて居るか、ドウ云ふことをして居るかと云ふと、先づ上海に著いて波止場に上つて方々歩行いて見ますと、隨分日本人にも逢ひますが、第一服裝から申しても日本人は眞に憐れに感ずるのです、内地に居つて見ますと、日本の服は優美でサウして便利に出來て居るやうに思ひますが、さて外國人が澤山居る、其の中に這入つて見ますと、眞にミスボらしくて、夫れを着て歩行くことがモー既に一つの恥のやうに感じます、私なども何處までも日本服でやり通さうと思つて、日本服ばかり持つて行きましたが、あまりをかしいので俄かに洋服を拵へて着るやうになつたです、其所になると支那服は餘程洋服に似て居つて、餘りをかしく感じない。どうも日本服は、北齋の繪にでもするには面白いかも知れないが、此の忙がしい世の中で着る着物とは申されないのです、而かも上海に居留して居る日本人は、九州あたりの中以下の人間が多いのですから、猶更日本人の風采が揚つて居ない、若し外貌から云へば是が露西亞と戦つて勝つた日本といふ文明國の人民であらうかと、外國人は不思議に思ふであらうと考へられます。又住居に就いて云うても、日本人は疊を西洋家又は支那家の中に敷いて、サウして住つて居るものが多いが、是も外國人の中では隨分變テコに見える、要するに衣服から云ふても住居から云ふても、日本流は一種特別で、而かも世界各國民の陳列場へ出すと、甚だ滑稽に又非文明的に見えるのです。殊に上海邊に居る日本人には、外國人の間だから構はないと云ふやうな厄介な考を持つて居るもの多くて、酔拂つて丸裸體になり、或は浴衣がけて臀をまくつて、

公園のベンチに掛ける様な連中がある、それであるから心ある日本人は冷汗をかくと云ふやうな有様であります。

上海に居る日本人ではドウ云ふ人が主もになつて居るかと思ふと、先づ上海で少し巾の利いて居るのが正金銀行員、三井物産の社員、領事館員、續いて大阪商船會社員、大東汽船會社員、それから私どもの商務印書館員位で、之れを取除いたら殆んど云ふに足らぬのであります。其の他のもので何が一番勢力があるかと思ふと、お恥しいことですが洋妾即ちラシヤメンで、是れは四千人の中で千人と註せられて居る、此の調査は間違がないと思ひます、其の他に少しは勢力ある商人も行つて居りますけれども、多くは浮浪の徒であつて、日本で喰詰めたから支那にでも行つて見やうと思ふ様な人々が大部分を占めて居る、或は宿屋の番頭となり、或は理髮人となり、或は小さな雜貨店を開いて居るとか、或は詰らない飲食店を出すと云ふ様な譯で、日本人の勢力と云ふ者は、他の國民に比して一向發展して居らぬ實になさけない次第であります。

夫れで私が考へますには、近頃移住殖民と云ふやうな論が頗る盛んである、私も日本のやうに年々歳々人口が多くなる以上は、外に向つて發展しなければならん、移住殖民は是非とも必要であると思ひますけれども、男で云へば無頼の徒女で云へばアパスレ者が外國に澤山行くと云ふことは、日本國の國益でなくして、却つて日本の恥を外國に曝らす様なものではないかと思ひます。今後移住殖民を獎勵するに就ては、此の點は餘程考へものではありますまいか。是と合せて前申述べた日本の衣服住居はどうしても改良する必要があるはしまいか、上海を見たに就いて第一に私の感じた事を併せて申上た次第であります、今晚は是で御免を蒙ります。

* * *
* * *

時正に午後十時、會はこゝに閉會を告げた。

『教育界』 第五卷第壹號

教育茶話會記事 (第九回)

小笠原 均

第九回教育茶話會は、豫定の通り十月十一日午後六時より神田區錦町三丁目の學士會事務所にて開かれた。今回出席者の顔觸れは、左の通りであつた。

| | |
|--------------|-----------|
| 帝國印刷株式會社專務取締 | 岩 田 僊太郎 君 |
| 文 學 士 | 常 盤 大 定 君 |
| 文 學 士 | 小 谷 栗 村 君 |
| | 曾 根 金 川 君 |

| | |
|-------------|--------|
| 東京市深川小學校長 | 鶴岡重治君 |
| 文學士 | 矢野太郎君 |
| 『教育』記者 | 牧口常三郎君 |
| 『英文日露戰爭記』記者 | 藤本武猪君 |
| | 福田琴月君 |
| 文學士 | 阿部莊二君 |
| 山口縣德山中學校長 | 杉山富槌君 |
| 文學士 | |

正六時一同食堂に入つて晚餐を共にし、暫時四方山話が盛んであつたが、廳て七時頃となつたので、席を二號室の西洋間に移した。すると、先づ左の『小學教師の待遇問題』調査案が委員から報告せられた。

小學教師の待遇問題

(括弧内の事項は希望に屬すること)

1、修養に要する資本

年限

金 錢

官公費 私 費

2、教師の資格

身體 品行 才能

3、教師の特權及束縛

特權

徴兵 (選舉權) (被選舉權)

束縛

營業權 政治的結社の束縛

4、教師の勤勞

危險壽命と興味

時間

5、教師に必要な生活費

『教育界』雜錄欄記事『小學教師の生活費』参照

6、師範學校募集人員と應募者との割合

7、轉職者の割合

十箇年以内轉職者の割合

他に轉職せるものゝ割合

他より轉職せるものゝ割合

8、發達のみち

法令上俸給の兩極點

法令が許可したる進歩の路

法令上市町村の義務額

9、有形的待遇

俸給 加俸 住宅料 手當 旅費 慰勞 療養費 雜收入 兼職 内職 贈與 退職給 恩給 遺族扶助料 (汽車汽船割引) (兒童教育上の特權) (納税の免除)

附俸給の支辦法 國庫支辨 (地方支辨) 町村支辨

10、無形的待遇

官 (位) (勳章) 感狀 義務年限 (公葬)

11、比較すべき職業

各種教員

軍人下士

實業者

甲種工業學校卒業生 甲種農業學校卒業生 甲種商業學校卒業生

神官

僧侶

巡查

判任文官

開業醫

12、外國との比較

小學教師待遇問題を攻究せんには、先づ以上諸項の調査を必要と認む右報告候也

調査委員

| | |
|---------|---------|
| 市 川 源 三 | 吉 田 升太郎 |
| 棚 橋 源太郎 | 曾 根 松太郎 |
| 松 田 茂 | 佐 々 政 一 |
| 御園生 金太郎 | 樋 口 勘治郎 |

右の案は、^{●●●}金川君が委員を代表して、概略の説明をせられた。尙ほ^{●●●}金川君は、別に瀧澤菊太郎君の主唱で、澤柳政太郎、岡五郎、小泉又一、林吾一等の諸君が小學教師待遇問題研究会とでも申すべきものを組織せられ、既に其の第一回を開會せられたといふことを報告せられた。偕て調査委員の報告案については、小谷、鶴岡、牧口等諸君から續々批評的意見も出たが、大體報告案を是認して、愈々各項目の調査に着手すべしといふことに決定した。

次に十分演説に移つた。すると、^{●●●}藤本、^{●●●}杉山、^{●●●}福田、^{●●●}阿部、^{●●●}常盤の諸君順次起つて次の演説を試みられた。

^{●●●}藤 本 ^{●●●}武 猪 ^{●●●}君

今夜私の御話致したいのは、露國現今の教育の有様である、昨年の春以來吾が日本國が露國と戦端を開きまして、海陸共に戦へば必ず大勝利をして遂に一種の平和を以て終局を告げたのであるが、此の露國の現今の教育の有様はドウ云ふ風になつて居るかと思ふ事は日本國民として研究して見るのも今日の場合甚だ面白くして有益な事と思ふ、併し私は是を研究して見たいと思ふ意思があつたけれども雜務に忙はしい爲めに是を研究する餘暇がなかつたのである、處が過日東京高等工業學校長の手島精一氏から一ツの材料を寄せられました、私に取つては委しき新しき材料でありますから、是を今晚の教育茶話會にて御話し致さうと思ふのである。

それはドウ云ふ材料かと云ふと先般白耳義のリエージ博覽會にて博士のコヴァレフスキーと云ふ人が演説せられた事であるが其大略を書いたものを其儘御話して見たいと思ふ、第一に露國一般の普通の教育は御存じの通り比較的他の歐米各國に比べて最近に發達したものである、今日は尙ほ吾が國に比べて教育發達の程度が低いと斷言しても決して間違ひないやうである、彼の露國の有名なペートル大帝の時代迄は教育は誰が握つて居つたかと云ふと坊主である、そうして其教育を受けるものも宗教界のものと政府側即ち上流社會に限られてあつた、處でペートル大帝が普通の極く初歩の小學校教育より高等なる學問を一般人民に施さうと思ふ事の基礎は置かれたけれども前世紀に至る迄は其效果比較的少なかつたのである千八百六十一年即ち前世紀の半ば頃迄は普通人民の教育は殆んど十分に行はれて居らなかつたと云ふて宜からうと思ふ當時僅かに存在して居つたものも宗教者の間にのみ在つたのである、又或る一部分の地方殊に教育に注意して居る政府側の方に行はれて居つた位みで其他は全く教育と云ふものは行はれて居らなかつたと云ふ有様である、それから千八百六十一年は露國の奴隸制度を廢した歳であるが此歳から教育上の發達は此時機を以て起つたと云ふて宜い時代であつた、其の發達の模様は他の歐羅巴の諸國から見れば遅々たるものであつて十分に進んだと思ふ事は出來ないけれども先づそれから動き初めたのである、處が亞米利加合衆國の教育事務官の千九百〇二年の報告に依ると、露國は其小學校に此の歳入れた生徒の数は四百二十萬三千二百四十六人であつた、是を露國の人口に比べると僅か三分三厘である、是を他の歐米諸國及び日本に比べて見ると合衆國は其歳は人口の二割一分であつた、瑞西では二割、英國は一割八分、獨逸は一割六分、佛蘭西は一割四分、日本では一割、其他以太利では七分、希臘は六分であつた、斯の如く露國は發達したとは言ひながら、僅かに全人口の三分三厘である、是を見ても教育の進歩の遅い事が分る、殊に最初述べたコヴァレフスキー博士の報告に依ると露國の教育は此位みの割合に出來たと云ふ事は案外宜く出來たと云ふて居る、露國は此歳迄は只武力と云ふ腕力の方面に進んで居つたけれども此年から三分三厘の生徒を得た此時代になつてから教育上に就て注意をするやうになつたのである、故に進歩は遅いけれども此割合に進んで行けば教育は盛んになつて來ると思ふ、是はコヴァレフスキーの説に依つて能く分かる、即ちコヴァレフスキーの言ふ處は、露國は進歩の程度は遅いけれども追々充分發達した國となるであらうと思ふて居る、同じくコヴァレフスキーの報告に露國に於ける一般普通の學校に於て千八百五十六年には僅かに四十五萬の生徒しかなかつた、千八百八十年になると其數忽ち増して百十四萬となり、千九百四年即ち昨年になると忽ち五倍になつて五百二萬二千七百七十と云ふ生徒

になつたのである、そして注意すべきは今の五百萬以上の生徒中三割五分は女生徒である、是を以つて見ても僅か五十年の間に非常なる進歩をして居る事が分かる、尙ほ將來は長足の進歩をする事は疑ひないと思ふ、此の普通教育の學校はドウ云ふ人が組織して居るかと云ふと大概地方に於ては露國で言ふとゼムストボース、日本で言ふと自治體と言ふもので市でやるとか地方にて町村であるとか云ふものが費用を出して組織して居る、而して文部大臣の監督の下とにある、即ち日本で言ふ視學官、監督官と云ふものが是れを直接に支配して居る、そして學科は普通學科即ち讀書とか算術とか種々のものがあるが其他かに希臘教、露國では是を正教と云ふて居るが此希臘教なる宗教を學校で教へて居る、それから寺院に在つて用ゐる言葉でスラボニックと云ふのがある此言葉をも教へて居る、其外に唱歌も教へて居る、地方の學校は小學の修業年限が五年であつて都會は六年である、そして前申述べたやうに市の學校は皆な市のある洲の費用で以てやつて居る、例へば恰度東京市ならば東京府で全體を統轄してさうして費用をも負擔して居る、それから、又他宗教の學校も存在して居る、それから純然たる露國民の外に、御承知の露國が漸々と征服して今は露國の支配の下とにある處の國、露國民より言へば自分以下の國民であるが是等の爲めに設けた學校もある、例へばバルチック海に沿ふて居る種々の國々や獨逸人から成つて居る處のヴォルガ河畔の地方是等は主としてルーテルの宗教改革派に屬して居て宗教の相違する處から別になつて居る、又高加索、土耳其斯坦等のマホメット宗を奉じて居る處には是に對する學校を設けて居る、もつと下等になると彼のジユデヤ人に對しては自分の都合の宜い適當なる學校を立てる事を許して居る、斯う云ふ風に人種宗教に由つて都合宜く設けて居る、其他に夜學校及びサンデースクール即ち日曜學校がある、是等の學校にては宗教以外の學科を主として教へて居る、又寺の費用を以て建てた學校がある、日本で言ふとニコライ教會で駿河臺に神學校を建てたやうに斯う云ふ種類のもので澤山ある。

そして、今迄云ふたのは初等の學校であるが、其より以外に現今では上の學校がある、さう云ふ學校は二種に分けて一ツをギムナシアと云ひ、是は古典を教育するを主として居る、他の一は所謂リヤルスクールでは是は實地の學校と云ふべきもので極く近代の學問や技術を教へる爲めに存在して居るのである、然れば初等以上の學校は幾何あるかと云ふと千九百〇五年即ち當時のギムナシアの数は二百〇七、豫備校は三十五ある、而して實地學校は百二十四存在して居る、そして現在それ等の學校に出席して居るものは十三萬六千ある、尙ほ一層進んで高等なる教育の露國に初めて起つたのはモスコウ大學である、其年は千七百五十五年であつた、其次にはドールパート大學で此學校は以前一度存在して居たけれども十七世紀に廢絶して千八百二年に再興されたのである、それから續々出來て今は露國の大學は十ある、即ちモスコウ、^(マ)ドールパート、カールコフ、カザン、ヘルシクホールズ、(一八〇四) セントペートルスブルク、(一八一九) キーフ、(一八三三) オデッサ、(一八六四) バルソヴィエー、(一八六九) トムスク、(一八八八) 此十大學が存在して居る、此等の學校は四ツの學科を教へて居る、語學、化學、醫學、法學である、其他首府即ちセントペータースブルクの大學では東洋語を教へて居る、それから第二に出來たドールパート大學はルーテルの宗教をも研究して居ると云ふ事である、そして其十ある大學で最も大きいのは

モスコー大學であつて生徒は五千四百四十一人居る、モスコーに次ぐのはセントペーターズブルクの大學であつて生徒は三千三百三十九人である、今のドールパートの大學を除けて九ツの大學の生徒の数は二萬一千ある、是を學科に依て分類して其割合を見ると法律を修めて居るものが全數二萬一千の四割四分、醫科は二割八分で、科學は二割五分である、それから是等十の大學以外に多少見るべきはツアールスコエ、セロと云ふ處にある帝國講義室の如き幾多の教育に關する建設物がある、又モスコーヤ浦潮斯德には東洋語學の研究所がある、是は大學と言ふて居らぬけれども先づ殆ど大學と同じやうなものである。

女子の方で言へば小學の事は略して置いて中等教育の有様を陳べて見るならば千七百六十四年カザリン第二世の時に女子教育學校が置かれたのである、けれども是は貴族の娘でなければ這入れないと云ふ事になつて居つた、千八百五十八年以後になつて始めて一般の人民が此學校に這入る事を許されるやうになつたのである、其數を申して見れば千九百〇三年即ち一昨年の計算に依れば學校の數は四百三十五、生徒の數は十三萬四千ある、それから今日の日本の高等女學校以上の學校女子大學とでも云ふべき學校は千八百七十二年セントペートルズブルグ、モスコーと二ヶ所に置かれた、同じ年に女子の醫學專門學校と云ふものが設立されて千九百四年即ち昨年には生徒の數は千三百九十二人あつた。

尚ほ此外に別に三階級に成てゐる宗教學校と云ふものが存在して居る、第一は凡ての階級の人民の子供を入れる、第二は宗教家の子供に限つて入る事を許してある第三は坊主自身が這入つて研究する學校である、次に師範學校はないかと云ふと教育者を養成する學校もある、其れは九十七あつて其生徒は五千二百人ある、夫から小學教員を養成する處は別にあつてそれは三百七十三ある、其他醫學校、専門の技術學校日本で言ふと工業學校のやうなものがある、次に農業學校とか又は美術學校、音樂學校、商業學校及び海軍陸軍の學校もある、商業學校の數は百六十七、農學校は二百二ある、露國現今の教育は右申したやうな風であるが然らば露國政府が主として如何なる教育に骨折つて居るかと云ふと普通教育である、其故に現今の露國の方針は高等なる専門學校よりも普通教育の發達を圖ると云ふ有様である。

● ● ● ● ●
杉 山 富 槌 君

私は田舎のものであれば、田舎の狀況なりとも御話するより外に、諸君の御爲めになる御話は出来ませぬから、我が山口縣の教育概況をかき摘んで御話致しませう、由來藩閥の一ツとして世の中の人に考へられて居る山口縣は、槌に一種の特長を持つて居るに相違ない、尤も私は山口縣のものでありますから、國の自慢をするやうであるけれども、比較的進取の氣象の富んで居るものゝ多いと云ふ事は、事實であらうと思ふ、委しい統計は知らぬけれども、海外に出て勞働者として又は實業家として働つて居るものが非常なる數に上つて居る、地圖で御覽になると分かりますが、南方に一ツの島があつて、是は一郡を爲して居る、此の島を大島郡と稱へて居りますが、此郡民は最も多くの出稼人を出して居る、移民會社の手に依つて出て居るものも、此の郡の如きは澤山あるのである、隨つて海外から送金する額も非常の多額に上つて居る、その他遠洋漁業に従事して居るものが、北方四方南方に於て漁師の半分は殆んど遠洋漁業の方を専門として居るやうであ

る、それから是は精密な數は分らぬけれども、婦人の海外に出るものも非常に多いやうに思ふ、さう云ふ工合であつて、餘程進取的氣象に富んで居る事は認められる、此度び山口高等學校が高等商業學校に變更されたのは、滿韓經營の爲めに必要な人物を養成する爲めであると云ふ事である、それであるから山口縣の高等商業學校の如きは、東京、神戸、長崎等の學校とは違つて、三年の修業年限になつて居つて、清語、韓語に力を盡して居る、目下の處はさう云ふ風であるから、近くは滿韓の事業を經營しなければならぬと總ての人は意氣込んで居るやうである、又教育に従事して居るものも、矢張り滿韓の經營に力を盡さなければならぬと云ふ事を勧めて居る、青年も亦先輩の後とを仰いで居つて、ボンヤリして居る事は、今日に處する策でないといふ事は知つて居るやうである、前の氣象に加へて、さう云ふ感じを持つて居ると同時に、今迄の氣象に加へて、さう云ふ感じを持つて居ると同時に、今迄防、長二州の人種は世に記憶されべき事業を起したから、私等も大なる事業をしなければならぬと云ふ事を考へて居るやうである、それに概して教育の方面に於ては、山口縣は比較的力を盡して居ると言つて差支ないと思ふ、三十二三年頃に山口縣の中學は一つであつたけれども、分校等を獨立させ、今日は五校である、それから大島郡に商船學校があつたものを縣立にし、又一方には漁業なぞの進歩と云ふ處からして、水産講習所の如きも、水産試験所の外に新たに設ける、又程度の低い工業學校を設ける、それから他に私立設置の商業學校があると云ふやうな工合で、學校も單に中學校のみならず、實業學校等まで進取的の政策を取るに必要な學校を出来るだけは發達せるやうにして居る、御承知の通りに、三十二三年頃には古澤滋君が縣知事をして居られたが、此の人は教育には熱心なる方であつた、其の次には武田千代三郎氏が知事になられ、同氏は教育上に就て完成した方である、尙ほ教育上の施設から申せば、特に注意すべきは圖書館であるが、三十二年には萩に郡立の圖書館を一つ設立する事になつた、是は田舎のものとしては大規模で、其から後に三十五年であつたが、山口に縣立の圖書館が出来た、是は今の前の萩に在る郡立の圖書館の三倍位の規模である、其の外兒玉男爵が獨力を以て設置された兒玉文庫なるものが徳山にある、圖書館の設置は流行になつて居るが、併し山口縣に於ける圖書館の紀元は古いもので、さうして出来るだけ眞面目に行つて居る、さうして其の圖書の利用が能く行はれて居る、一例を以て言へば、山口圖書館は其の他に巡迴圖書館の制を行つて居るが、是は各郡に廻はすと云ふ風になつて居る、それから新刊の外國の冊子の如きは、矢張り縣立學校の間で、之を購買して置くと云ふやうな工合で、其の點から言へば、一つの圖書館が利用せらるゝ事は、都下の圖書館より數倍の働きがあると思ふ、戦役が始まつてから、費用がドウなつて居るかといふと一厘一毛も削減せずにやると云ふ事迄進んで居る、それから都下の地に西洋人を置くと云ふ事は何んでもないやうであるけれども、地方で西洋人を置くと云ふ事は六ヶしい事であつて、其の費用を豫算に編入して置いて居る學校は、僅かに數校であるやうに聞いて居るが、山口縣は五校共に一人づゝの西洋人を雇ふて居る、施設に關する事は、それ位みにして置いて、最初言ふた通り、進取的氣象に富んで居る事は慥かである、將來に於ても山口縣よりは實力を有する社會上の位地を占むる人の出来ぬと云ふことはあるまいと思ふ、モウツ學生各養成所がある、是は詰まり陸海軍の將校志望に對して貸費をするものであるが、勿論貧乏なも

のに與へると云ふ事は土臺であるけれども、極めて寛大な事をやつて居る、或る意味から言へば將勵的と見ても宜い、是は各縣共に競ふて計畫をして居るやうであるが、山口縣の方は最も歴史が古いやうである、それ等も非常な資本金で約七萬圓ばかりになつて居るやうである、それは中學校、地方幼年學校に對して爲す事である、山口縣の教育はマア大體こんな有様であります、

● ● ● ● ●
福 田 琴 月 君

何かチヨツトでも話せと云ふ事でもありますけれども、別段御話しする程の考もありませぬが、只私は此頃ある新聞で見ましたが、露西亞の名畫工の畫かれたものが掲載されて居つたのであります、私はそれを見て大いに感じた、それは旅順の籠城の時であつたが、マカロフは陣中であるにも拘はらず、大いに美術の力を以て露西亞の名士の多くの心を勵ましたと云ふ事でもあります、是は誠に敵ながら殊勝なものであると考へますから、戦後の日本兒童教育の上に就て、大いに参考とする價值あるものと思ふ、それから此頃歐羅巴から歸られた人の話を聞きますと、伯林の眞中には本屋が澤山あるけれども、教科書を賣る本屋がなく、伯林の小供の爲めには繪本が澤山あると云ふ事でもあります、是も聊か注意を拂ふ價值のある話と考へます、是等外國の有様を見ても、教育は寧ろ直覺的に繪を以て其ものゝ情に訴へると云ふ事は、誠に有效なる事と思ふのであります、是は旅順要塞の話聞き、又歐羅巴より歸られた人の話と對照して、益々深く感じた次第であります、そこで日本に於ても、子女教育の任にあるものは、美術家の力を借りて、教育に之れを應用し、讀むと云ふよりは見ると云ふ方面から、子女に對して知情の發達を促すと云ふ事が、誠に必要なる事と考へます、今晚は少々身體の工合が悪うございますから、是で御免を蒙ります。

● ● ● ● ●
阿 部 莊 二 君

私は此頃生徒の御供をして遠足に行きまして大きな聲を出したものですから、喉を痛めて居りますが、今日は生憎いつもの御話上手の方々が見えないので、御指名の御鉢が折角私のやうなものゝ處へ廻つて來たのでしやうから、一寸思付いた事を少しばかり御話して、皆さんの御考を伺つて見やうと思ふ、私は商業學校の生徒に接する機會を持つて居るので、時々君等は學校を卒業してからドウ云ふ様な者になるのかと云ふ事を聞くと、何んでも非常に大きな事を考へて居るやうである、三井や岩崎の大番頭さんにでもなつて東洋の商業を一人で背負つて立つやうな事を云つて居る、そこら當りに店を張つて居る商人などは、鼻先へも寄りつけない様な風です、志氣の壯大なるは寔に嘉すべきであります、其處には警戒すべき一種の思想が暗流して居るのではないか、只日本の内地には色々な方面に人が餘つて居る、もつと適當に云へば、受動的方面に人が餘つて居る、實業は盛んに唱へられて居るけれども、實業社會にも人が餘つて居る、今度の戰爭の結果戰爭に使ふ金は使はなくなるだらうけれども、軍費は却つて増すであらう、随つて色々な方面に事業の大緊縮が行はれ經濟的の經理をやる様に、改革が行はれるに定つて居る、そうすれば益々人が餘つて來る、尤も事業の緊縮は感心しないが、經理の方法を經濟的にやるのは、如何なる時にも必要な事ではあるが……、そこで學校の生徒が多く望んで居る處は、或る大事業の事務の一部分を負擔して、其修養したる技能を發揮するのであると云ふ事を考へて見ると、益々人物過剩と云ふ事になるだらうと思ふ、一方では必要上事業の緊縮をする又開化の趨勢上經濟的

になる、一方では是から世の中に出てそう云ふ處に地位を求めやうとして居る、まるで逆に行くのであるから、權衡が取れないで、大に困るのである、教育者は世の中に出て餘るやうな人間を拵らないで、ドン〜働いて行けるやうなものを拵へなければならぬと思ふ、學問の研究は、獨りでも出来るけれども、實業は社會でやらなければならぬものだから、社會でやれる様な實業家たる様に、生徒を鼓舞誘導するのが、實業教育に従事する者の要務ではなからうかと思ひます、普通教育の方でも同じ様な心懸が入ります、それならばドウ云ふ風にするかと云ふと、既に人の計畫して居る事業の地位を占めて行く事は出事(マツ)ないのであるから、自分から自分の職務を作つて行くと云ふ事をやつて行けば出来るのである、處が自分からやつて行く事は無論初めからサウ立派には出来ぬものであるが、併し小さい事細かい事卑しい事でも構はずやつて行けば、随分出来ると思ふ、殊に先きの人のやつて居らぬ事を新に開拓して行く事は必要であらうと思ふ、實業教育を受けたものは徒に人の手先に使はれて、虎の威を假る狐で得意になつて居るよりは、自分が獨立して事業をやつて行くと云ふ風にすれば、人物過剰を濟ふことが出来る、一體自分で自分の仕事を計畫して行くから實業なので、他人のインストルメントになつて威張つて居るのは虚業である、少くとも非實業である、然るに日本の人はさう云ふ事を好まない風がある、又大變サウ云ふ事を卑む風がある、何々會社の重役であると云ふ様な事をエライやうに思ふて居る、小賣店でも開いて自分がやつたり、又は千金丹でも擔いであるくのは、見苦しいやうな考を有つて居る、又世の中からもそう云ふ風に思はれる、私はさう云ふ氣風は改めて行かなければならないのではないかと思ふ、自分で自分の運命を開拓する様な事は、ドンナ小規模の事でも、決して詰らぬ事でないと思ふ様な氣風を世間で拵へ、又是から世に出る者にもさう云ふ事に詰らぬものでないと云ふ事を鼓吹した方が宜いと思ふのである、要するに始めから體裁を飾つたり、間違つた見識に基づく外聞などに拘泥しない様な、眞正の意味の着實有爲なる人物を作る様にするのが、本當ではないかと思ふのである。

● ● ● ● ●
常 盤 大 定 君

私は教育の方面には極く單純なものでありますから御話した處が面白くないに相違ない、そこで私はかねて研究したいと思ふて居る事に就て少々御話します。それは何かと云ふと、民間信仰の対象になつて居る諸天善神の中で、籍を印度に持つて居る帝釋天とか摩利支天とか毘沙門天とか云ふやうな天神を、一ツ研究して見たいと思ふ、佛教取りきりの諸佛菩薩も澤山ありますが之が研究は餘程六ヶ敷い。波羅門教に籍を持つて居るものが却りて研究し易い點を有して居る、其中に於て今日は少しく帝釋天に就きて御話します、此天は古くより能く行き渡りて崇拜せられて居るから、其名は誰も知つて居るが、この神さんは大に面白い頗る趣味に富んで居る、大昔を言ふと印度人は東漸したもので、其初中央亞細亞より一方は西に流れて歐洲人の祖先となり、一方は東に流れて印度民族の初を爲したものであるが、この印度民族の最初に土著したのは、五河地方である。即ち印度の流域である、この地方に於て、最も著るしき天然現象に向て、歌を唱ひ物を供へて、嘆美供養したのが宗教の本になつて居る、著き天然現象とは、光明ある天體で、太陽とか、曙光とか、天空とか、すべて光るものである、光るものは神力の發現と考へたからなので、

光のある處は最初に拜まれて居る、就中最も初めに注目を引いたものは太陽であるけれども、併し漸々東漸し、段々熱くなつて來るに随つて太陽はありがたくないうやうになつて來た、太陽の熱よりも、雨の方が大に希望せらるゝ様になつた。而して此雨の神はインドラといふので、これが後に帝釋天として非常に美なる神話を以て歌はれたる神であるが、其神話の起りは、至りて簡單である。空に黒雲が起つて來たから雨が降るかと思ふと遂ひ降らない爲に、非常に失望する時がある、降雨のないのは惡魔が居つて妨害するに相違ない。此時に人民の爲に雷の聲電を以て其惡魔を退治し、一時に雨を降らすのが、彼インドラである。かゝる理由からインドラ即ち帝釋天は、最も難有い神となつたのであるが、此戰爭の時に帝釋天を助けて行くのは摩利支天である、帝釋天、摩利支天は共に戰爭の神であつて、古往今來、一勝一敗、空中に於て始終戰をして居ると云ふ事である、其戰爭談が初めから面白く書かれて居るが、後には種々の色彩が加へられて、實に小説の如き結構を有するに至つた、扱此帝釋天がドコに居るかと思ふと須彌山の頂上の三十三天の最中の喜見城に居り、又この須彌の四方を鎮護するのが四天王である、以上は甚だ疎末に筋書だけを述べたのであるが、帝釋天のことは、斯の如くにして出來たのであります、これが支那を通りて日本に來りてドウ云ふ風に變化して居るかといふ事を研究して見たいと思ふて居るが、之に關して種々の材料を供給して下さるゝ方があらば、甚だ難有い、殊に縁紀又は傳説などは其神の作用、傳來、年月等を明らかにするものだから、大に之を歓迎する次第であります。

* * * * *

以上辯士の演説に對して質問も出た、意見も出た、かれこれするうちに、午後の十時となつたので、こゝに閉會を告ぐることになつた。

『教育界』第五卷第貳號

教育茶話會記事 (第十回)

石川松溪

第十回教育茶話會は、例に依り去月十一月、神田錦町の學士會に開かれた。當夜出席の面々は

| | |
|--------------|--------|
| 文學士 | 小谷栗村君 |
| バチエラー、オブ、ロース | 渡部萬藏君 |
| 東京朝日新聞記者 | 吉田升太郎君 |
| 東京市學務課員 | 曾根金川君 |
| 文學士 | 矢野太郎君 |
| 法學士 | 山本信博君 |

東京市小川女子小學校 松田 茂 君
福田 琴月 君
文學士 阿部 莊二 君
文學士 佐々 醒雪 君
樋口 勘治郎 君

等の顔觸れであつた。先づ一同食堂にて晚餐を喫し、夫れより第二號の西洋室に入つて、幹事の挨拶あり、續いて例の有志演説に移つた。

● ● ● ● ● ●
渡 邊 萬 藏 君

江木博士は、曾て藝名論を主張して、吾輩は辯護士として、原被兩造の爲に、頼まれれば何方へでも理窟をつける、併ながら法學博士としての議論は、萬古不拔の意見を立てるだけの覺悟を有つて居る。夫れであるからして辯護士としての名前を何か欲しい、俳優の團十郎は悪人にも扮すれば善人にも扮するが、堀越秀としての彼の人格は別にあるだらう、斯う云ふ議論をされましたが、私は教育に就きては全く門外漢で此處に出まして教育に關するお話は出来ないのであるが、身振りの使ひ分けをして江木博士の藝名論のやうに、唯々教育茶話會に出た渡部としてと云ふだけのお話しも出来ないであります。夫れで只一寸と亞米利加に居つた時に觀たことに就て極く、簡單にお話申上たいと思ひます。

モースなことは誰も承知でございますが、亞米利加の大學は、實地應用を主義として居るから、或は比較的に程度が低いかも知れませぬが、又吾々の如く亞米利加に行つて、亞米利加の大學卒業したものは、無論亞米利加人で大學を卒業したものよりは、學力が低い者もあるのは事實であります。入學するにも卒業するにも外國人には特典を與へてあります、日本の帝國大學にも大分外國人は這入つて居りますが、矢張り特典を與へてあるだらうと思はれます。

夫れで亞米利加の大學の中でも、市俄古大學は獨逸の伯林大學と共に世界に於て程度が高い方だ、されども、コーエヂケーションで男女合併の教育である、尤も亞米利加は、大^{ユニバーシティ}學、高等^{ハイ}學校も、師範^{ノーマル、スクール、}學校も、小^{グラママー、}學校も、總てコーエヂケーション主義になつて居る、併ながら市俄古大學の如きに至ては、尤も明白に男女の先天的の精力の比較が出来るやうで、即ち市俄古大學の程度では到底婦人には堪へることが出来ないから、規則としてはコーエヂケーションであるけれども、實際は婦人の大學に居るものは、年々減つて來て、今では僅か數人になつて居る。又其残つて居る者も勉強の爲めに非常に健康を害して居るが、試験の成績は到底男子に及ばぬのである。

お話は別であります、婦人に高等教育を授けるのは、餘程考へものだと云ふ事になつて居る。元來亞米利加は新開の國であります、色々仕事が多いので、國民の多數を占めてをる中等以下の男子は學校教育を受ける暇がなく、夫れ〜實務に當つて居るのでありますから、中等以下の社會を見ますと、婦人の方が却つて教育を受けて居るやうな状態である。夫れは婦人はサウ早くから男子の様に勞働に堪へませぬ故、婦人の方が多く學校に通ひ、其の結果婦人の方が高く高い教育をも受けて居るやうな傾きになつて來た。夫れで此の婦人が高等教育を段々にうけて、教

育と財産と平均がとれない、且つ生活の程度が高い國柄だから、ドウしても其婦人が獨身で暮すものが多くなつて来る。斯う云ふ傾向は年一年太甚しくなるのだから、社會問題として考へものであつて、又假令他に嫁入しても、其の中等以下の家庭には、夫の方が無教育のものが多いで、主人よりは妻君が却つて知識も人格も高い。大工の妻君や、土方の山の神に學士號を有つて居るやうなものがある。サウ云ふ風であるからして米國の識者は、社會問題として此の女子教育に就て、種々講究されて居るので、社會の秩序を保つ點から云ふても、又個人間—家庭の上から云ふても斯く男女の教育の釣合ひのとれぬことは、國家の大問題であらうと思ひます。

夫れから此の大學を見ますと、御承知の通り各州に公立の大學がありますが、非常に良いものもないが其の代り非常に悪いものもない、大抵平均して規則も嚴重になつて居る。私立大學の方になると、非常に程度も高く、且種々の設備に富んで居る學校もあれば、又非常に程度の低いものもある。併し米國で第一流の大學と云へば御承知の通り多くは私立大學である、ハーバード、エール、コロンビヤ、コーネル、シカゴ、スタンフオードなど云ふは私立であつて、第一流の大學であります。是等には世界有數の大學者を講師に持つて居る、總ての施設も完備して居る、基本金も澤山ある。殊にシカゴ大學、スタンフオード大學の如きは、基本財産は非常に澤山ある。サウかと思へば私立の方には實に苛い、長屋の片端を借りて大學の授業をやつて居るものもある。

夫から下つて高等學校を見ますと、何れも三年の期限であつて、科目は非常に澤山ある。小學の方を見ますと八年若くは九年でありまして、小學の程度は日本よりは非常に高いやうに思はれます。五六年頃になりますと、日本の尋常中學位の程度のものも課して居る。是れは一は讀書力の關係も非常にあるのであらうと思ひます。日本の方は讀書力をつけるのに非常に年限もかゝる様に見うけられますが、米國では容易く讀書力が就きますから、日本のやうに讀書力を養ふ時間に他の學科を課する様になつて居るので、此の良成績があるだらうと思ふ。其れで米國には日本のやうな尋常中學はなく、小學から高等學校になつて、夫れから大學になると云ふやうな順序である。

尙ほ此の教育のことに就ては、門外漢であります、米國に行つて居つて、其の際に見て來たこと、感じたことも澤山ありますけれども、今回は是れだけに致して置きます。

樋口勘治郎君

一寸と幹事として渡部君に歡迎の辭を述べます。此の教育のことは今日までの如く、所謂教育者、教員と云ふものだけが注意をし、研究をし、骨を折つて居るのでは、實效を擧げることは覺束ない事柄だらうと思ひますのであります。デ渡部君が従事される所の新聞と云ふ機關は、廣く社會のものを誘掖して、進歩發達して行く世界の形勢、日々出没する社會の現象を、廣く世に示して行く所の道具であつて、大なる教育機關だと思ふのでございます。渡部君は只今門外漢であるとお話でありましたが、我々は此の教育のことを微力ながら心配して行くに就て、是非新聞と云ふ勢力ある機關の援けをからなければならんと、一同云ふて居るのでありますから、此の後永く教育の爲に御協力を願つて行きたいと希望いたします。殊に君が従事せらるゝ朝日新聞が、日本の新聞界に持つて居る勢力の大なるを思へば、吾等の意を強くするに足ります。

只今亞米利加のお話を承つて、同國の女子教育が或は進み過ぎたやうなことで、或る方面に於て男子の教育と女子の教育と釣合ひが取れぬと云ふお話を承りましたが、是等のことは、日本に於ても注意すべきことであらうと思ひます。

女子は男子と協力して行くためには、同じ様な性質のことを同じ様な程度を以て學んだのでは不便で、必ず女子は女子の本分、職業に就て適することを學び、男子は男子の職業、夫れに適する本分を學んで、サウして社會に出て職業や學問で競争するのではなくして、女子は男子の保護により、男子も女子の助力を得て、美しい社會を生み出すやうに進めて行かなければならんかと思ひますが、亞米利加は或は一時歐洲の極端に走つた——耶蘇教會の手で營まれた壓制教育に對する反動として、又極端に走つた自由教育の弊に陥つて居るのではあるまいか、渡部君のお話は、大切なる女子教育を行ふ方針、女子教育を進めて行くことに就て参考になることであらうと思ひます。殊に吾國唯一の女子大學は、純粹のアメリカ流の教育を施してをるときゝますについては、君が亞米利加に於て觀察せられたこと又之を基礎として作られた御意見等追々詳しく承りたいと思ひます。

又彼の國にては八年九年の小學校教育は、日本の中學と同年位、又は夫れ以上のことを學んで居ると云ふこと、夫れは國語の容易なることに基因すると云ふこと、如何にもサウであらうと思ひます。

此の頃小學校の國語の教育に就て調べて見て、國定の讀本の一の巻を讀終つたものは、二の巻をスラ〜讀んで仕舞つて、其の事柄を大抵知つて居る。一の巻で片假名と十までの數字とを習ひました生徒は、二の巻で新しい文字に接しない。只拗音とハヒフヘホの音便とが、新らしく出るだけのことであるから、其の二の本は、一卷六ヶ月かゝつて教はるべきものを、一晚に讀んで、仕舞つて事柄も大抵そらんじて居ると云ふやうな譯であります。若しも日本の國語が假名ばかりになつて仕舞つたならば、教育は餘程よく進むだらうといふことは想像するにたくありません。是等の點に就て、新聞紙に十分なる注意を拂つていたゞきたいのであります。最早、「日本新聞」までが假名附きになつた時代であるから、早く假名ばかりの新聞を生み出したいものではありませんか。

日本が第二の維新とも云ふ可き膨脹の時機に至つて、教育者も必ず刷新しなければならん。陸軍が二十師團になりますか、海軍が幾十萬噸の軍艦を造りますか知りませぬが、教育の方は經濟が許さぬために大擴張も出來ますまい。教育の方は澤山に經費をますことも出來ますまいが、せめては同じ經費を以て出来るだけの多くの効果を奏することをしなければなりません。陸軍の方では或は二年兵役に制度を改めるかも知らぬ、教育の方でも國字を簡單にすることとか何か、工夫を要する儀と考へます。私は普通教育を假字のみで與へるようになるのは、教育界の二年兵役制度といつてよからうと信じます。斯等のことを主張するに就て、又社會を警醒するに就て、新聞紙は勢力があるものと思ふ。殊に朝日新聞は東洋第一、日本に於ては肩比するものなく、東京と大阪とに大新聞を發刊して居られて、其の經濟力も大なるものであつて、斯界に唯一の勢力を奮つて居るのでありますから、既に渡部君のお話もあつて御注意になつて居る、國字問題のため

に御盡力あらんことを望みます。

幹事としての挨拶やら個人としての意見やら混雑いたしました、一言以て歓迎の意を表します。

● ● ● ● ●
佐 々 醒 雪 君

今渡部君のお話になつたことに就て考へ就きましたことを少し申しませう。此の前々回大田黒君のお話があつたことに就て、私は全然不同意だと云ふて置きましたが、其の後他の人に伺つて見ますと、近來の日本の教育は、實業界で要する程度より、少し高過るのではないかと云ふやうな疑が起つて來ました。

今の帝國大學の卒業生は、四五年前から此のかた、仕事がなくなつて困つてることがいよゝ激しくなつた。亞米利加に於ける學位のある女子が、下層の人間の所に嫁入すると同様に、帝國大學の卒業生が、三十圓四十圓の俸給で職業を求むる、夫れですから大學の卒業生はむづかしいやうである。然らば大學生は高等教育は受けたにしても、普通の國民として元來能力の不足な人間であるかといふに、兎も角大學に這入る位のもは普通教育に於ても中等教育に於ても、先づ拔群に學術も出來て、夫れで勝れた體力をも有つて居り、又優れた理解力をも有つて居るものが大學まで行くのであります。して見れば職業を求め得ぬのは箇人の不完全ではなくて、教育の不備といはねばなりませぬ。又一方から見ると、其の間に要する費用は随分少くない額であります。大學の在學中に千圓を要するさうであつて、高等學校、中等學校の在學中の費用を計算すると貳千圓は要かる、其の間その金を借りたものと見做して利子を累計すると千五百圓を要し、總計、一人の學士の爲に四千五百圓の金がかゝります。其の四千五百圓の金があれば、一ヶ年の一割の利子と見た所で四百五十圓、サウして見れば一ヶ月に此の金の利子ばかりでも三四十圓位は取れなければならぬ、取れ得べき理窟であります。夫れだけの資本を投じながら、今の様に苦むと云ふ状態でありますと、金をかけて教育するよりも、寧ろ其の金を貸して利子を取つた方が利方だと云ふことになる。

サウして見ると、今日の教育と今日の實業社會と、適合せぬ状態ではあるまいか、日本の社會には夫れだけ高い教育が必要でないと云ふことなれば、丁度亞米利加の婦人には、只今のやうな高い教育を課する必要がないと云ふ論と同様、日本教育も、今日のやうな高い學力が必要でないと云ふ結論が出ないとも限られないと考へられます。

吾々の立場から云ひますと、是非學校は總て盛んにしなければなるまいと思ひますが、前顯のやうな考へは父兄の間にひそんで居る議論ではあるまいかと思はれる。

十年前の子供は、丁稚から番頭にしようと思ひまするものは平民に多く、父兄が昔し月給を取つて居つた士族の子弟と云ふものが高き學校に居つたやうな状態でありましたが、今日大學の統計を取つて見ると、在學生の中に士族の数が減つて今日では貧乏士族の子弟よりも、資本家の子弟が餘計であることは事實であります。尤も是れは一時の流行に驅られて、誰も彼も高等の教育を希望すると云ふやうな點からして、平民の子弟も多く高等の學校に居ると云ふ譯でもありませうが、此の獵官熱に驅られた學校教育の結果が、果して有益であるかドウか、卒業して後に却つ

て其の就職が問題となつて、高等の教育をうけた爲に、却つて學問に食傷し過るやうな状態ではないかと云ふ疑がある。

兎も角今日の教育に關係して居る方々が、教育をして斯う云ふ風に赴かせたと云ふことは云ひ得ることと思ふ。斯う云ふ状態に立至りましたと云ふことに就て、種々の原因もありませうけれども、詰り教育家が、今日まで自分の手に子弟を呼寄せることは随分上手にやつたのである、併しながら教育行政を取締つて居る人に、この需要供給の調和の考がやゝ乏しかつたのではあるまいか、第一が教育社會を監督して居る所の文部大臣が、是まで歴代政治界に實力を有つて居つたものは稀であつて、力の無いものが多かつた、從來の文部大臣の多くは、學問上、教育上の理窟は知つて居るだらうが、實社會に勢力をなす所の知識、能力は他の大臣に比して劣つて居つたと云はなければならぬ。久保田さんは豪いかも知らぬが、他の桂伯以下の人よりは勢力が鮮ない。勢力の鮮いと云ふのは、其の活社會に活動する上の能力に乏しいことゝ思ひます。若し文部大臣が我が教育界を代表するならば、教育界には實社會に對する知識能力ともに他の社會よりは缺乏して學問のみ學達して來たものであるまいか。兎も角サウ云ふ風の文相以下が案じ立てた學制、教育の方法は、日々發達する所の實社會と疎遠であるではないかと思はれます。

日本の大學は非常に發達して、今日では最早や歐米の大學にも劣らない。これは學理を學理として移植したから速に進歩したので、これを日本の社會にアドプトする上に於ては、教育は他の社會に劣つて居るやうであります。だが例へば工業界で汽車を作るとする、こゝでは外國の汽車を其のまま日本に持つて來ても、規模が大き過ぎて通用せぬ。歐米の汽車と日本の汽車とは違ふ、夫故に日本に適當な汽車を組立てることは、蒸汽力の學理を翻譯するよりも困難である。しかし一旦出來上れば全く日本の實用をなすのであります。が、學理の方は翻譯の立派なだけでは、實用に遠いのである、今子供を對手にする教育に於てはこの翻譯的なものが多くて、適用に於ては、多少社會に後れて居るのではないかと云ふ心配を近頃抱いて居ります。實はかういふ疑は教育界以外に對しては秘して置き度いことではあります。が、今夕は教育に直接縁故のある人のみでありますから、愚見を申し述べまして、御批評を願ふわけであります。

● ● ● ● ●
山 本 信 博 君

幹事から指命された以上は、お饒舌をしないと濟まないと云ふことですから、極く簡單にお話をいたしますが、是れは私の説ではなくて、私の疑問を抱いて居ることをお話して、諸君の御解決を願ひたいと思ひます。

私は學校に關係はありますけれども、作文と云ふ科は受持ては居りませぬが、他の作文を教授して居る先生がたに伺つたり、又生徒が作つて居ります文章を見ると、中等の學校に居る人にしては、譯の分らぬ文章を、非常に宜い頭を有つて居る人と見られる人が書いて居る、斯う云ふ風のものが大變ある。夫れで作文を受持て居る先生は、ドウも時間が不足で思ふやうに教授が出來ない、モー少し時間を多くして貰つて、十分に教授することを希望すると云ふて居る。是れは果して教師等の云ふやうに、其の教授の時間が不足して居つて、爲に斯う云ふ結果になるのであらうか、又は其の教授法の研究が足らぬ爲であらうか、兎も角我々の子供の時より劣つて來たやう

に思はれる。夫で作文と云ふものは、習はなくとも才能があるなれば出来るものであれば、別に多くの時間を割いて教ゆる必要もないと思ふが、又教ゆると云ふて二三時間を割いて教へなければ効果は擧らないものであらうか、習つてやれるものかやれないものか、打捨て置いても才能のあるものは上達するものか、サウ云ふやうなことは分らないのであります。

今日は文章を以てお立になる方々がお出でになりますから伺ひましたのでありますが、何時でも宜うございますから、ドウか此の點の御説明を願ひたいと思ひます。

● ● ● ● ● ●
吉 田 升 太 郎 君

數回御無沙汰をいたしましたので、申譯に出ましたが、何か話をせよと云ふことでございますから、別に考への纏つたこともございませぬが、一寸、一言と申し上げやうと思ひます。其の前に幹事に謝したいと思ふことがあります。今晚は朝日新聞の渡部君が此の席にお出になつて、眞に私共の爲に有益なるお話をして下さつて、非常に愉快、又大層利益に感じました。ドウカ今晚とても今晚渡部君が御出席下さつたやうな鹽梅に、此の會の光彩を一層添へ可き人を會ごとにお加へ下されて、其のお話を中心としてお話をいたしましたならば、非常に利益は多からうと思ひます。今晚渡部君の御出席につき幹事のお骨折を謝し併せて希望を述べます。

さて私は甚淺學であり、甚無識でありますが、今迄執り來つた業務の關係で斯んなやうなことを平素調べて居る。つまり學校でする仕事は、何所まで自由であるか、又國として教育と云ふことに何所まで干渉しなければならんか、詰り其の兩方の接觸點は何所にあるかと云ふことを、平素——大變大きな仕事ですが、——自分は任じて夫れを自分の仕事として研究して居ります。世の中に教育の學理を研究する、人は大分ある、又教育行政のことは其の道々々に於て講究されて居るが、此の教育と云ふものは何所まで教育者の自由であるか、何の位の都合迄自由に自分の考へを行つて行つてよいか、餘程研究しなければならん問題であらうと思ひます。サウ云ふ事に就て種々の問題を捕へまして研究して居ります。

夫れで小學校や中學校の有様を見まするのに、私共の見るところによりますると、教育者の自由に屬すべきことを、大層自分から制限して規則に拘泥して、やつて居るものがある。又教育者の自由にさせては行かぬ、制限しなければならんことを、教育者が其の制限以外に自由と思つて居るやうな傾もある。素より國家の必要上から制限を加へやうとすることは、其の制限に従はなければならん。併しながら成べくは害のない以上、國家の目的とする所に妨げないことは、教育者の自由にさせて行くのがよいと思ひます。今日中學校などでは、徴兵令の特典、文官任用令の特典のある爲には普通の私立學校では自由にやれる教育者の頭に任せてよき事でも、或る檢束をうける。其の檢束が中等教育の爲に必要なことであるか、一體中等教育は何んなものであるかと云ふことは、未だ分らない。小學校の教育でも分らない。少しばかりの事で中等教育は斯んなものであると云ふことは云へない、檢束しなければ非常に害がある、國家の目的に叶はないと云ふのでなければ、教育者の各自の頭に任せた方が宜からうと思ふ。又教育者の方の側では、教育其の物の力で生徒を躰けて行くべきに規則づくめや、機械的の仕方を以て生徒を躰けて行かうと云ふやうな傾がある。卒業の認定は、教育行政上の手段であつて、教育其の物の手段でも目的でもない。

卒業を認定する場合に、平素の品行上の点数を加へるとか、或は缺席の度数によつて点を引いて見るとか、機械的のことを以て生徒を躡けて行くことが、あるが、甚だ意氣地のない事と思ふ。免状をやることは、教育行政上のことであつて、其のことは教育上の手段に叶ふだけのことであれば宜いのが、此の手段を寧ろ教育其の物の方便に逆利用して居るのは大に面白くない。

大分議論のあることでございますが、中等學校に於て、一般に教授法が下手な爲に、學力が進歩せんと云ふことは、殆んど一般の議論となつて居るやうであります。而して小學校の部面はドウであるか、教授法の方法論は盛んであつて、夫れで小學校の教育はドウ云ふ風なものであるかと云ふ點は餘り構はないのである。私は、小學校の教授法の研究は、モ一宜い加減でよいと思ふ。小學校の教育はドウ云ふ風にしたらよいかと云ふことを考へると、只だ國民的精神を養ふとか、或は忠君愛國と云ふやうな事ばかりで、小學校教育の舵をとつて、いつてよいかと云ふことは疑であらうと思ふ。將來の世の中はドンな状態であるか、少くとも今の子供が大人となつて世の中に出た時は、ドンな社會の有様であるかと云ふことを見て取つて、サウして其の社會の生活に適し得るやうに教育して行くことが必要であらうと思ひます。素より我々の信ずる所によれば、將來に國家と云ふものは益々鞏固となり、永遠に續くものと思ふ。夫れと共に社會思想の進歩も測るべからずで、國家と社會との關係はどんな風に現れて來るかと云ふことは、大に研究を要するものと思ふ。詰り人間は勿論麵包を要するものである。精神界の方面から見れば異論もありませんが、麵包の問題を度外に措いて、人間社會の教育と云ふものは決して考へられないものと思ふ。マ一義務教育と云ふことはドウ云ふことである、何故國家が強迫するか、と云ふやうなことを考へますにも、又一方父兄の方から見まして何故貧苦のもの迄も子供を學校に送るのであるか、つまり兩方の側から考へて見なければ、小學校の教育は分らないと思ふ。

例へば國字の問題の如きもサウであります、單に教育の方面から見ると、成べく文字をやさ^(ママ)くして、サウして實際の事實の知識を得させる方法が宜いには相違ないが、父兄の側から見ると、子供が世の中に出て、日用のことを便じて行く上に、現在の國字國文を了解し、自由に使用する方を望むに相違ない。斯う云ふ方面のことをも考へなければならぬ。種々の方面から考へて、サウして生徒を教育して行かなければならぬ。夫れでなければ小學校の成績は擧げられないのである。

實際の教育は教育學で示すやうに簡單のものでない、近頃國家社會主義教育學、社會的教育學などありますが、一體教育學は教育の一部面を示すものであるからして、先輩の人は餘程此の點を考へて、小學校教員を指導して行かなければ、小學校の完全は得て望みなきことと思ふ。若し夫れでなければ、今後の國民を如何せんと云ふ問題が起つて來る。勿論忠君愛國の精神ある人間は出來なければなりません、唯夫れのみでは、其の社會に適合した人間が出來るか否かと云ふことは、餘程疑のあることと思ふ。

日本は今度の大戦争で世界的になり、又社會的になつて來るからして、大に眼界を廣くして教育に従事して行かないと、折角汗水たらして實に詰らないことになつて仕舞はなければならぬと思ふ。つきては小學校の方面では今少しく教育其のものの概念を研究する風が盛になるし、中等學校の方面では教授方法の研究が盛になるやうになつたならば、而して熱心に教育されたならば、

其の効果は必ず大に觀るべきものがあると思ふ。

考へは甚だ纏りませぬが、平素の考へを未定稿ながら申した次第であります。

● ● ● ●
松 田 茂 君

私が今擔任して居りますのは、女子の小學校であります。所が御承知下さつた通り私は本來男女共學に就て興味を有つて居るものであります。圖らずも女ばかりの片輪の學校を擔任するやうな運命に出逢ひまして、實は少々狼狽を致しました。しかし、擔任した以上は、主張とか興味とか勝手な熱を吹いて居るわけにも行きませんから、近來、一生懸命に、女子小學校に於ける教育の方針といふことについて頭を痛めて居ります。で、さしむき、只今では何んな考への下に事に當つて居るかといふことを此所で申上て見まして、御批評を仰ぎたいと思ひます。私の考へが若し一寸でも間違つて居たならば、其の害は少くも學區の中に及んで行くわけでありますから、どうか御遠慮なく御指導下さるやう願ひます。

先づ私の學校を見る人があつて、これは男の學校と何處が違ふかと問はれたならば、只女の子が集つて居るから疑ひもなく女子小學校でありますと答へるだけであります。それは、折角女子小學校といつても男兒と同じ教科書を使つて、男兒と同じ教授法の下に、男兒と同じ教育を施して居るのであつて、女子學校としての特色は別段發揮されて居ないからであります。しかし、これは發揮されぬのが當然かも知れませぬ。片輪の學校に特色を持たせたならば、夫れこそ眞に片輪ばかりを養成するやうになりますから。が、將來の問題は、將來の問題として、現に女子のみを集めた女子小學校があつて、そこで仕事をして居る以上は、出来るだけは、其特色を利用する様な方針を取らねばならぬ。本來女子は家を治めるのがその天職であらうと思ひます。若し或る特殊の職業に従事するとか、或は深遠の學理を研究するとかいふ人がありましたならば、夫れは女の中の變りものでありまして、そんなものは出来るときには學校で教育しないでも出来ます。若し私の學校から紫式部や清少納言が出て來たとて、夫れは私の學校の誇りではない。能い世帯持ちの妻君が出て來たならば、それこそ眞に誇りとするに足ると思ひます。尤も、能い世帯持ちの妻君といつても、様々の要素を備へて居なければならぬけれども、大體が少くもその時世に應じ、その社界に適したものでなければならぬ。然るに、今日の女子教育を受けた人は、多くはそれに應じて居ない適して居ないやうであります。今日の女子教育は多數が浮氣であつて眞面目ではありません。虚用的であつて實用的ではありません、貴族的であつて平民的ではありません。斯んなことで永く續いたならば將來我が國力上恐るべき影響が現はれて來はせぬかと思はれます。そこで、若し小學校にも女子小學校といふのが存在し得るものとしたならば、其の教育上の方針としては一に此の弊に染まらないやうに寧ろ進んで此の弊を矯めるやうに努めることが最も適切ではないかと思ひます。

さて、此の弊を矯めるには、第一に教科書が極めて不都合に出來て居ます、現今用ひて居る教科書は、男子小學校にも、女子小學校にも、亦男女共學の小學校にも單級にも多級にも流用せられて居るもの故、これを女子の學校に用ふるとしたならば、比較的迂遠な材料が澤山あると同時に切要な材料に缺けて居る點が甚多い。是れは先づ十分の調査を遂げて置いて、其の缺を補ふ

方法を講ぜばならぬ、それをするには第一に材料を遠慮なく取捨して、第二に其の取り扱い振りを講究することが肝要であらうと思ひます。

例へば、修身科で職業の撰擇は何んな標準に従ふべきかを討究せしめたり、算術科で陸地測量の資料を計算せしめたり、理科で礦業のことを嘯々したりすることは、男子には適しても女兒には迂遠であるといはねばならぬ。又、同じ燃焼のことを授けるとしても、女兒なれば實際的の事項を主題として、炭の繼ぎ方、薪の加へ方、ランプの手入法、心の切り方、火消壺の蓋の仕方等に就て、一々適實に應用が利くといふ風に教授して行かねばならぬ。修身科でいふなれば、家具は如何に整頓すべきか、それは何故か、其通りにしないならば何んな不利益があるか、一枚の風呂敷を疊むにしても、如何に疊むことが最も好い方法か、何故かといふ風に授けて往つて、猶、それを實際に訓練して、出来るだけ眞面目に、出来るだけ、實用的に、出来るだけ、平民的に遣つて行かねばならぬと思ひます。雑巾がけも出来ぬ女は、女中をしてそれをさせることも出来ぬ。女中をも使へぬ女は、會々氏なうして玉の輿に乗つた所で所謂令夫人のお役は勤まるものではありません。恰も、軍隊で靴の磨き方や、銃の手入法からして教練せられ來つたものでなくては將校のお役目は勤めさせないのも同じことでせうと思ひます。

男ですらも、最早口の人には用のない世の中ですから、女にして手足の利かぬ者を養成したならばそれこそ片輪者で、生涯幸福な家庭を作ることは覺束ないでせうと思ひます。

これが、私の女子小學校に於ける教育上の大方針であります。何うか御遠慮なく御批正下さるやう願ひます。

斯くて幹事より、小學校教員待遇問題の調査報告は次回に廻はすことを述べ、次回の話題をば、吉田君提出の

今後の國民教育上特に注意すべき事項

と定め午後十時頃會を閉ぢた。

『教育界』第五卷第參號

教育茶話會忘年會の記

醒 雪 未 醒 記

曰く大學事件、曰く清國書生事件、教育界紛擾の最中に於いて、我が茶話會は、其の忘年會を帝國大學に近きあたりに開く。蓋し、大學會議所に開かるべき本會は、教授會議等の爲に會場を轉ぜざるを得ざりしなり。僕少しく期に後れて開場に入るや、例の豪傑連は更なり、凱旋の勇士桐谷文平君、往年の腕白書生石井波平君などの新らしき顔も見えて、何となく活氣の室に溢るゝ

ものあり。嘉例によりて曾根君の挨拶の勿體ぶりたる、稍重くろしき愛嬌の間に、杯盤は運ばれたり、桐谷君が日露軍の比較談、前人未だ説破せざるところに入りて、人々の膝立て直しも暫なりけり。やがて佐々木君が慷慨談「無智者の智者を導かんとするは今の教育行政なり」と唱破するや、拍手將に樓を覆して、近く赤門内の氣焔を煽するに似たり。一波既に起りぬ、餘波長くして而して力あり、樋口君が所謂教育改進黨創立の宣言、或は予輩を拉し去りて、政治家の渦中に投げ、相携へて改進黨の急先鋒たらしめんと欲するかを危みぬ。忘年會はかくて一たび、討論會たらんとしぬ、杯中の物漸く冷ならんとして、熱心なる樋口君の改進黨は娓娓として盡さず。曰く「請ふ且く矛をして我が主張を盡さしめよ。これ教育界の危機なり、予が徒の最大事件なり。忘年の逸興を妨ぐるの罰は、金谷の酒數を十倍にするも尙ほ辭せざるなり」と。言殲をなして氏は今夜遂に樓上酔臥の客となりぬ。さても、氏が主張は、宛としてこれ政客の口吻、坐に官祿に衣食するもの多し、何者かこの在野黨を一喝し去るものぞ。高等師範の驍將棚橋君は立てり、然り毅然として立てり、しかも嗚呼氏が快辯の何ぞしかく滯滞せる、氏が主張の何ぞ朦朧たる。あらずや、氏は斷じてかの汜々として波と上下するものに非ず、其の自ら守るところ育英の業に在りて、敢て政論者流の間に冒進せざらんとするもの、其の政論に巧ならざると、其の挺身の勇猛なきとは、自ら氏が生平の懸河滔々の調を妨ぐるものありしのみ。故に曰く「予は竊かに樋口氏の壯舉を賛して、而も自ら陣頭の卒伍たる能はざるを憾む」と。坐偶一酔客あり、叫びて曰く「怯なる哉怯」とこれ終に酔客の言のみ、蓋し毫も驍將の徳を煩すに足らざるなり。しかも、更に酔客の饒舌を鼓するあり、更に吉田君の吏黨的口吻を装ふあり、舌戰漸く闌にして、玉漿いよ冷なり。偶々聾の如く、啞の如く、箸杯に専なる者と雖ども亦竊かに、天下の形勢を窺つて一旗幟を樹つるの地を選ぶものの如し。海内將に亂麻に陥らんとして、こゝに忽ち和平の曉聲を聲く、松溪石川先生が講談これなり。或は輕快に、或は壯重に、東海の傑士豊太閣の面目を活寫し來りて、恍として憤々者流が小是非を忘れ、夢幻の境に在つてこの古英雄に接するの懷あらしむ、かの囂々の徒即ち慙伏して忽ち聲を收むるもの、蓋し、玉漿妙理、かの張扇を助くるあればなり。かくて忘年會は初めて開かれたり、羽觴の飛ぶところ、世界すべて歡伯の國たり、醒むること久しきもの豈何ぞ酔を解せざらんや。玉纖々は勸む壺中の春、髯武者の阿房陀羅經の意外に巧にして、氣取屋の謠曲遠吼に似たらんは、げに逝く年を忘るゝ團欒ならずやは。

『教育界』第五卷第四號

教育茶話會記事 (第拾貳回)

安 田 生

第拾貳回教育茶話會は、去月十一日午後五時半より、東京帝國大學内の教授會議所 (俗稱御殿)

に於て開かれた。此の日の出席者は、左の顔觸れであつた。

| | |
|--------------------------|-----------|
| 哲學館大學講師 | 立柄 教 俊 君 |
| 文 學 士 | 小 谷 栗 村 君 |
| バチエラー、オブ、ロース 東京朝日新聞記者 | 渡 部 萬 藏 君 |
| 東京高等師範學校教授 | 櫻 井 寅之助 君 |
| 文 學 士 | 佐 々 醒 雪 君 |
| 文 學 士 | 矢 野 太 郎 君 |
| | 石 川 松 溪 君 |
| | 加 藤 駒 二 君 |
| 文 學 士 | 阿 部 莊 二 君 |
| | 樋 口 勘治郎 君 |
| 都新聞記者 | 山 本 信 博 君 |
| 法 學 士 | 曾 根 金 川 君 |
| (ママ) 文 學 士 | 阿 部 莊 二 君 |
| 文 學 士 | 大 井 徹 翁 君 |

談話は誰れ彼れの區別なく盛んに交換せらるのであつた。曰く、どうも新聞の三面記事には困る、三面記事はどうか毎夕発行の新聞に限つて記載することにでもして貰ひ度い。曰く、新聞記者の筆が、兎角死人に何等の同情のないのはいかんと思ふ、情死者にも同情すべき點は慥かに存在してをるのである。曰く何、曰く何、兎角話題は新聞の記事について續けられてをつたが、此の間、渡部君と山本君とは、たゞ無言の儘苦笑してをられた。聽て食膳の準備が整つたので、一同食卓に就いて晚餐を共にした。此の間にも談話は切りに各所に交換せられてをつたが、座の一隅に拍手の聲が起つたので、フト其の方を顧みれば、樋口君が起つて、開會の辭に兼ねて左の演説を試みられるのであつた。

樋 口 勘 治 郎 君

茶話會が生まれ出ましてから、丁度今日で滿一週年に成りました。是から茶話會の第二年に入るのであります。第一年を送るこの會を帝國大學の中のこの御殿で開きましたのは幹事等の聊か欣びとする所で、實に好い會場を得たことゝ思ふて居ります。この會場は我々に種々の事を聯想せしめます。最近教育界に活潑なる出來事があつた。大學教授が同盟して前文部大臣を苛めた。大臣は私が年始に行つて見たら門を閉ぢて居られたが、實にお氣の毒なことでありますけれども、是も教育の爲めであるならば止むを得ない。若し吾々の中から文部大臣が出たらば、官邸にはいつた其の日から、私邸に閉ぢこもる用意をして居なくてはなりません。新年に門を閉ぢる必要はありますまいが、官邸に未練をのこさず。よろこんで冠をかける覺悟が肝心であります。新年は祝の時、喜ばしい時であります。勝つて兜の緒を締めると云ふことゝ同じことで、喜びの中には亦如何なる悲しみもあり得るものでありますから、それに準備する必要があらうと思ひま

す。例へば久保田さんの如きも社會から負はれた義務を盡し得なかつたとお考へになつて責を引かれ、尙ほ門を閉ぢて謹慎なされた譯けかと思ひます。これを見ても喜びの中にあつて悲しみのあることを知らなければならぬことがわかりませう。抑も悲しみの原因は五六種もあつて權力を失つたと云ふ悲しみなどは其の重なるものでありますが、この會は未だ幸か不幸か、失ふべき權力がないから悲しむことが無いかも知れませぬが、そろゝ此權力……力をも造る準備をして往かなければなるまいと思ひます。私の話は娓娓としてつきませぬから、(笑聲起る) 何卒召上り乍ら、……又此の御殿が聯想させるものに、大學生の運動會があります。此の運動會に於て疲れから起る悲しみを見る事が出来ませう。是の悲みにも我々は準備しなければならぬ。餘り精神でも身體でも使つて疲れて苦痛を起すやうではならぬ。吾等は力を得んが爲めに相當の活動を要するであります。餘り疲れ過ぎぬ心がけが必要であります。尙又苦痛は單調と云ふことから起ることがある。例へば私の斯う云ふ娓娓とした單調の話をお聴きになると苦痛が起ることだらうと思ひます、その單調と云ふことを我々は今後戒めなければならぬ。客年はせめて會場だけでも變へやうと思ひまして、或は個人の家、或は學士會事務所、或は多加羅亭、又彼の忘年會の様に、色々と苦勞してその單調を防ぐ工夫をしました。本年も亦どうぞ斯う云ふやうにありたい。時にはお互いの妻君でも、或は姉妹でも連れて参りまして單調を破つて、音樂でも奏して呉れるやうなことがありたいものであります。此の會はどこまでも茶話會でありますから、廣い範圍の中で色々な工夫が出来やうと思ひます。その中から自然と教育の爲めの意見なり、調べなりが出て來たならばそれで満足すべきであつて、例へば昨年調べ始めた教育者の待遇問題如きも其の後娓娓として進んで居りますけれども(笑聲起る)……急ぐには及ばない。一個人の命は極つて居るけれども、團體の命は永いから、慎重の態度をとつてゆつくり調査してよからうとおもわれます。

又この苦痛は非常な變化からも起る、單調から起る如く亦非常な變化から起ります。それでこの變化のあまり激しくない、丁度其の中庸を得て變化して行くと云ふことにもお互ひに注意して往かなければならぬかと思ひますから、屢々耳にする遠足の如きはまづ近足位にしておいてほしい。尙ほ非常に貧しくても苦痛である。是は私も能く知つて居ります。此の會も適當な計畫を立て、基本金の少し位はこしらへて行くがよからうかと考へます。併し又非常に富んで居る人にも富の苦痛と云ふことがある。から、寄附金募集だの何だのといふ大騒ぎをするにも及びますまいが、凡そ是等の權力の無い苦痛、疲勞の苦痛、單調の苦痛、變化の苦痛、貧窮の苦痛富の苦痛等の起る所以によくお互ひに注意しまして、三年目の會をも、恰も今日愉快に迎へる如く愉快に幸福に迎へたいものと思ひます。

ソコでそれに就て何う云ふ風にすれば宜いかと云ふことのお考を皆さんからこの食事の終つた後に餘り娓娓としないやうに陳べて戴いたら宜いかと思ふのであります。それだけを開會の言葉といたします。(拍手)

會 根 金 川 君

唯今樋口幹事からお話を致しました様に、今回が本會の滿一週年に成りますから、概要一年間

の経過を御報告申上度いと存じます。併しながら會計上の事は、本夜の分をも籠めて、次回に申上げますから、然様御承知を願ひます、

偕て、この會に出席せられた方は、三十七名になつて居ります、始めこの會を起す時には廣く人を集めやうと云ふ考へを有つて居りましたが、自然の成行に委かす方が宜からうと云ふ御意見もありましたので、此三十七名の方は、詰り自然の成行きでお集り下さつたのであります、それで其職業別けをしますると、東京帝國大學の講師が一名、東京高等師範學校の教授訓導が四名、中學校師範高等女學校の校長教諭が、六名私立學校の講師が二名、夫から小學校長二名、視學二名、新聞記者五名、雑誌記者七名、著述家二名、宗教家一名、軍人二名、畫家一名、實業家二名であります。次に本會がこの一年間に何ういふことをしたかと申しますと、もと〜斯う云ふ會でありまして、その席で互に談話を交換するといふのが主要目的でありますから、取纏めて別に事業として申上げる程のことは無論ありませぬ、唯每會有志の御演説を願つて互に、知識の交換を致したのであります、但し、談話の主題を定めて、互にお話を仕合つたことが三回、一ツは「教育の意義」と云ふことに就て、一ツは「青年男女の交際」について、今一ツは「女子教育の方針」について、此の三問題について、各々意見を陳べたのであります。夫から「小學教師の待遇問題」を調査することに成つて、今尙ほ調査中に屬してをります。先づ概要以上の次第であります。甚だ大略であります、先づこれだけを御報告申して置きます。(拍手)

* * * * *

程なく食事が終つて、一回談話室にかへつて、思ひ〜の椅子について、有志演説が始まつた。
曾根君^(ママ)が先づ起つて、次の演説をせられた。

● ● ● ● ●
曾 根 金 川 君

私は改めてお話する程のことはありませぬ。たゞ強いて題を付ければ「新年雑感」とでも云ひませうか、詰り此お正月に私が感じたことを陳べて見たいのです。私は昨年からはじめてをりますが、今年も元旦に初日の出を拜まふと思ふて、例の朝寝坊が、早く起きて、六時過上野の山に行つて初日の出を拜んだのであります。其時の心神の爽快なることといつたら、丸で本年の我が輩と昨年我が輩と違つた人間のやうな感じが致しまして、ソコに新たな希望も起るし、新なる勇氣も湧いて出るし、何ともいへぬよい心持でありました。それで私は、今後毎年これを例として高臺に登つて、初日の出を拜み度いものだと感じたこととあります。^(ママ)それからその日のことです。數軒年頭の廻禮を致しました、戦捷後の新年でありますから盛んな景氣で、至る所お正月らしいです。所で私は序といつてはすまなひが、久保田前文相方に立寄りました、所がこゝは打つて替つて寂しい有様で、玄關の名刺受に僅か四五枚の名刺が置いてあつた計りであります。前月迄文部大臣で實に赫々たる勢力を持つて御座つた所の久保田さんが、今年はその門に集るものが僅か數人に過ぎないとは、替れば替るものと思ひました。夫についてもウツカリ文部大臣なんかになるものではないと思ひましたイヤ非常な得意の後には非常な失意の時の來るものであるから、平素其の考を持つてをることが大切であると感じたのであります。^(ママ)それからその次の二日

の晩に、樋口君の御親父の七十七の喜字の御祝がありまして、自分も招かれて、其の席末を汚しましたが、其の時私は七十七の阿父さんと七十一のお母さんとお両方の健全にお揃であると云ふことは、實に樋口君の幸福で、此の上の目出度ひことはないと思ひまし、^(ママ)た偕丁度其席に御承知の畫家の尾竹國觀氏が居られましていろ〜^(ママ)特意的筆を揮つて、芽出度い畫を書いてをられました。それを見て私の思ひ起したのは、「小國民」と云ふ雑誌に出てをつた記事です、丁度國觀氏の十一歳の時に描かれた畫が出してあつて、この人は將來必ず畫の方面に於て伸ぶべき人であると云ふことが書いてありました。所が果して氏は今日熾んに畫界に盛名を馳せて、得意の境遇にをらるゝのであります。それについても私は大に天才教育の重んずべきものであるといふことを感じたのであります。何んでも天才を殺さないやうな、益々天才を發揮せしむるやうな教育も非常に大切であると云ふことを感じたのであります。』それから四日の晩に代議士の長谷部君から、郷里の青年を集めて新年會を催すから、來ないかと云ふことでありましたから、出席して見たのであります。^(ママ)この長谷部君の郷里は、私が丁度明治二十六年頃に奉職してをつた所でありましたが、その頃に教へた小學時代のものが、今では大學の學生になつて居るものもあれば、早稻田大學や慶應義塾の學生になつて居るものもあるし、さう云ふ學生に取圍まれて、先生々々と呼ばれて、色々昔話や將來の希望話もしたり聞いたりして、實に愉快を感じました。教育者の有難味は蓋し、斯う云ふ所にあるものと自分は深く感じました。此の味は實際教育に従事した人でなければ分らぬと思ひます。』それから最後に又カツギ屋のやうなことを申しますが、何故か此の茶話會の開會日は晴天が多いやうです。今迄も多く晴天でありますし、又た昨夜來の雨で心配をしてをりましたが、只今此の通りよい天氣に成りました。世の中に東郷日和があるならば、私は又茶話會日和があるやうに存じます。此のやうに天幸を得てをる本會は更に人力を盡して益々盛大に至らんことを望みます。下らぬことを申してお耳を汚したことを謝します。(拍手)

立 柄 教 俊 君

私はこの會創立の時に生まれて以來、何うも缺席勝ちで諸君に餘りお目に懸りませんでした。本會は一年の間に段々發達して開會の日とは大いに觀を異にして、會員も大層殖えて大層立派な會になつて居るのは實に喜ばしい、次第であります。

デ唯今何かお話をしなければならぬことになつたのでありますが、別に何と云ふ考へもありませんが、今日の通知には戦後の教育と云ふことになつて居りましたから、そのことに就て少々考へて居ることをお話をしたいと思ひます。近來日本の教育は餘程方針が順當に向つて居つて、今後その方向を進めば教育は益々盛んになつて、國家の繁榮、國民の隆昌の機運には十分に適することゝ思ひます、今戦争があつた爲めに別に何う云ふ風に教育の方針を變へなければならぬかと云ふ様なことは何にも無からうと思ひます、今までの發達して來た方向を取つて往つたら宜からうと思ふ、併し若し茲に戦後に於て注意すべき點を擧げて見ましたならば澤山ありませうが、何にも戦争後であるからと云ふ譯けでは無い、つまり従前の方針より見て殊に必要と思ふことに過ぎぬのです。今一二之を申上げて見たいと思ひます。

戦後の教育に就て一番大切なことは萬口一に出るが如く經濟發達を圖らなければならぬといふ

のであります。ど一してもその方向に進まなければならぬ、即ち商業工業農業を盛んにして國民經濟の發達を圖らむければならぬのであります。戦後に於ては國民は三十億位みの國債は先づ負擔しなければならぬ、其の利子だけでも非常のものである、それに平生の經常費等を合せると國民が負擔する額は大變なことになる、之を考ふれば實業教育と云ふことには十分に骨を折らなければならぬと云ふことは言ふに及ばぬことである、それで今度我々教育者が實業の方に向つて力を盡すに就ては、餘程注意を爲なければならぬ、今普通教育に於て實業的に教育を施すに就て従前の歴史を考ふるに、嘗て實業教育と云ふことは大變盛んであつて、明治二十二三年頃かと思ひますが文部省が將勵して全國の小學校に盛んにやつて居りました。それが何時の間に止んで終つて、全國に於て一時は手工などをやつて居る所は東京に一二しか無かつた、といふことであります。而して戦争が無くても實業は餘程盛んにならなければならぬ機運に向つて居るのであります、戦争の爲に一層其の必要が迫つて來たのである。さて今度又やつて果して成功するかと云ふことが一つの心配である、若し前の通りになると大變なことである、ソコで前に失敗したのはやはり實業科につきて教師がそれだけの素養のない人であつたと思はれる、それでそれだけの功が擧がらなかつたと思ふ、何うしても教師と云ふものが素養がなければならぬ、元來教師は實業なんと云ふ者が嫌ひで教師になつた連中が多い、それがやると云ふのであるから難しいと思ふ、それで先づ第一に教師の教育が必要であらう、教師の方が能く出來たならば假令實業科と云ふものを一科目として學校に置かないでも色々の學科を教授する間に其成績を擧げることが出來ると思ふ、その教師と云ふものが出來ない中にさう云ふ學科を置いた所で又前日のやうになるであらうと心配するのであります、それが一つの問題。

モウ一ツは無暗に金を溜めたいと云ふて餓鬼のやうに鶏を飼はせるとか、何んとか云ふことを一概にやつては逆も往くまいと思ふ、實業を盛んに爲なければならぬと云ふことは實業専門の知識を與へなければならぬ^(ママ)云ふことばかりでは無い、農業なら農業、工業なら工業、商業なら商業の知識を與へやうと云ふことよりは、第一に大切なることは精神の養成と云ふことである、農業の知識を餘計に持つと云ふことよりはその農業に要する所の精神、又商業ならその商業に關することよりはその商業に要する所の精神、即ち所謂徳育の上に於て修養をする、その方が元であらうと思ふ、第一教育の上に於てその品性を養ふと云ふことが元になると思ふ、何にも金は無くても、金は人間が造ることが出來る、品性さへ出來たならば金は出來ると思ふ、縱令金があつても人間に品性が無ければ金は役に立つものでない、獨逸などは酷い目に遭つたが、國民の品性と云ふものから金も出來るし、又ア、云ふ風に發達を爲したのであります、實業教育は大切には相違ないけれども、その専門の知識を與へるよりは寧ろ基礎的の精神を養成することが大切であらうと思ふ。

モウ一ツ私が思ひますことは、之も珍しいことではありませぬが、日本で今まで失敗したのは皆外國の様子が能く分からないので失敗して居るのであるから、外國の事を一層能く教へるやうにしなければならぬと思ふ、國際談判をしやうが商業をしやうが、向ふの様子が分からないと云ふことが大弊害である、この點に深く注意しなければならぬ、それは何う云ふことかと云ふと、

普通の教育に於ては地理歴史と云ふやうなものゝ教育、殊に近世の歴史と云ふものに就て能く教へる、今日では新聞を讀んでもナカ〜外國のことが一般人に分からない、それは何うかと云ふと、外國に關する知識が乏しいと云ふことが元である、爲に失敗した所を見ると戦後に於ては何うしてもその點に注意しなければならぬと思ふ、ソレに就ては詳精しいことをお話したいが、マア大體に於てさう云ふことである、即ち特に注意爲なければならぬことは、この外國の様子を能く知らせると云ふことである。(拍手)

● ● ● ● ● ●
櫻井寅之助君

戦後の教育と云ふことに就ては大要を言へば誰も一致する様な分かり切つたことになり又細密に涉れば種々様々に注意すべき點のある様に思はれる現に京都府教育會の如きは昨年十月頃大分綿密な調査の結果を發表してをるソコで唯今立柄君から品性と實業と云ふやうなお話がありましたが、私は一ツ教師の方に注文を付けやうと思ふ昨日の『讀賣新聞』の机の塵とか言つた欄に面白い皮肉が言ふてあつたが餘り露骨だから其意味だけを取るとこふなんです。

某さんは斷の一字を額に懸けて居らるゝがあれば其乃父の極めて決斷の宜かつたと云ふことを景慕せらるゝの意か但又自ら能く之を行ふといふ意であらふか記者の考では斷の一字は最某氏の難しとする所蓋しアレは自分の缺點をソコに掲げて自ら誠めとして居るのであらうと、ソレで私の教師に對する^(ママ)註文と言ふのも其所らの意味合とお聴取りを願つたらよからふと思ふ。

私の注文といふは大に犠牲的精神を發揮すべしといふことで之は國民一般に望むべきであるが先以て世の教師たる方々に此事を希望するのでありますこのことに就ては『教育界』に於て箕作サン御説があつたと思ひますが、頗る同感の次第で之を實現するのはなか〜六ヶ敷いことであるが、教師となるには何より是が必要な資格じやあるまいかと、思ひます幡隨院長兵衛とか唐犬權八と云ふやうなものは、市井の匹夫でありますけれども、彼等が權威を以つて居つたといふのはやはり俠氣、縱令淺墓な名譽心の奴隸であつたにせよ一方に義俠な犠牲的精神を發揮したことが彼等に一種奪ふべからざる權威を與へたのではあるまいか其所に又彼等は相當の満足を見出したではありますまいか是からの教師となるものは世間の爺親や兄貴に代つて夫等の若いものを一番人間に仕上げてやらうと斯う云ふ犠牲的精神で仕事することが出来るならば縱令教育者以外の者が如何やうに申して批評しやうとも案外安じて居れるのであるまいかと思ふ、精神が此所にあつたならば、其仕事の效果も隨て立派であらふと斯う云ふ感じを私は持つて居ります、いくら戦争の爲めに日本の國勢が進んでも物質的待遇で教師を満足せしむることは出来る丈勉めて欲しいが隨分六ヶ敷からうと思ひます。

又今申す様な事を別の方から解釋して見ると、この間までは日露の間に武力の戦争であつたが、是からは、平和の戦争である、戦ひには常に必ず對手があるが、我々の敵は何人であるか、その敵を分類して見ると云ふと國と國と敵對することもあり、人類と他の動物、生物一般とが敵對するとも見らるれば、又人類もしくは生物と無生物と敵對するといふ様にも見ることが出来るし又我々一個人に宿つて居る慾望とか何んとか云ふものと敵對するとも見えます要するに我一人の敵我等の團體に對する敵は種々様々で非常に多い人生は畢竟之等に對する奮闘であるそれで西曆第

十九世紀と云ふ前世紀に於て人類對自然界の戦争で最も能く之を征伏し制御したものは、今二十世紀の劈頭に於ては一番榮えて居る「ナチュラルサイエンス」を多く研究してその方から多くの利器を得て最も巧みに利用した人民が今日の強國を作つたのであるその點に於て最も後れて居つた國は其國勢が今一番後れて居るやうに思ふ、して見ると是からの問題は何うしても成るだけ小異を捨て、大同に就き範圍は對者の如何により色々あるが其れ相應に鞏固な團結を作つて共同の敵に對ふといふでなければならぬ、即ち所謂大同團結をやらねばならぬ、ソ一云ふ時分に團體の各員が己れが〜と云つて皆が豪がると仲割れがして何も出來ぬことになる、矢張之れにも犠牲的精神を發揮せねば望む様な勝利は得られぬ、船の中で幾ら相撲を取つても船は前へも後へも進む譯のものでない權を出して外に向ふて力を働かせなければならぬ、唯今私は學校で若い者の世話をして居りますが彼等の團體生活に於てもこの犠牲的精神を發揮^(ママ)して皆が一致してやると案外麗はしい結果を得ることが出来る、と云ふことを學生が悟つて來たやうに思ふのであります、デ何うか是からのことは公共の爲には私利私益を潔く犠牲として惜まぬといふ精神を以て何事も行はれるといふ風に望ましよう思ひます。

最後に一寸申添へたいのは先程も實業云々のことがありましたが、略ぼ同感でありまして、之には少し自分の學校で學生等が近頃やりましたことを吹聴したいのであります、御承知の通り東北地方に於ては大變な饑饉慘狀で甚しい所は目も當てられぬといふ風に聞こえますが、私の方の學生共がアレへ義捐金をしたいと申出ましたから、飲食などに使ふのを儉約して義捐するも宜しい、同じ使ふものならば義捐するも宜しいが、併しドージヤ斯う云ふ話がある、學校の中に土持をする仕事があるが、土持を一時間やつたら五錢、二時間に十錢と云ふことで、是は二人でも三人でもやれる、その取つた金を義捐すると云ふことにしたら、冬休中外の運動の仕にくい折柄^(ママ)丁度腹こなしにもなつて良からうと云ふ話をした、所が随分面白い皆に相談して見やうと云ふので、段々募つて見た所が二百人ばかりになつて、やつたが一人一時間五錢であるから、二百人二時間づゝやつた、それで二十圓と云ふことになつた、モツとやつて見やうと云つて居るから幾らになりますか外から見て居た仁は髯武者の土持を見て囚徒でも見る様だナド冷かしたと申し升が私共は皆名譽の土工と云つて随分寒い日もありましたが委細構はず多勢で以てナカ〜愉快にやりました斯う云ふやうなことは折にふれて流行るやうになつたならば至極結構なことであるまいか。……立柄サンの説もありましたから一寸申添へました次第であり升。』^(ママ)

● ● ● ● ●
佐 々 醒 雪 君

戦後の教育と云ふことに就て種々お話がありましたが、私は別に細かいことは申しませぬ、この戦後の教育と云ふことに就て何ものが最も注意しなければならぬかといふと、私の考では唯今度の戦争に依つて得た所の國民の自覺と云ふことを十分に教育の上に推擴けて行くと云ふことであらうと思ひます。この外に戦争後に於て實業教育を急に起すとかいふ風のことは殆んど無意味のやうに考へられる、これは『教育界』にも論じておきました。

戦争から得來つた國民の自覺は實に大きいものであらうと思ふ、之を間違ひ無いやうに、自負心に變じない様に子供の頭に入れると云ふことは、極めて必要なことでこの點が成功したならば、

外交の失策は計算するにも及ぶまい。元來日本國が露西亞に必ず勝つと云ふことは、我が國民も戦争以前には知らなかつた。我々の國民の中に……神様とも何んとも思はなかつた人間の中に、東郷大將が居ると云ふことは、戦争を経て始めて知つたことである。我々も始めて知つたことで子供は尙更ら知らなかつた。子供等に東郷大將は自分の友達の中にも居る、自分も或は東郷大將である、日本國は小さいけれども、世界の最も強大^(ママ)な國になつたのであると云ふことが十分に分かりましたら、それより大きな教育は殆んど無からうと思ひます。若し戦後何もか企てなければならぬならば、それを間違ないやうに自覺せしむることです。全國民が各々自分の力を自覺して、自重し、奮激するといふことより以外に、殖産興業の方も、文運刷新の途もあるものではないと私は信じます。(拍手)

大 井 徹 翁 君

私は経験も何もありませんので、つひ近頃までこの大學の人間でありまして、僅かに社會に首を突込んだ位であります、が、昨年の秋頃より近懸の師範學校に教育的方面の受持を囑託致されてその方に於て幾分か一日の職を取つて居ります、斯の如き不肖が賢明なる諸先生の會合に出席することが出来たのでございますが、或は出席する資格があるや否やと云ふことは問題でございましょう、併し私は一つの斯う云ふ好縁を得たのであります、それは私の知人の市川君が本會の會員なのでございまして、私が先日同君の宅を訪問致した時に君も教育に首を突込んだことであるから、我々の友人で催して居る教育茶話會と云ふものがあるが、佐々先生なども出られず、其他の先生方も出られますからして君も出席したならば爲めになるだらうと云ふことで、それならば至極幸運の次第と喜んで居りましたが、丁度機會も至りまして市川君から本會は今晚この席で開かれると云ふ通知に接して、私は今日の授業が終るや否や汽車を飛ばして参つた次第であります、實にこの席に出ることの出来たのは私の今日の榮譽であるのみならず、是が機會として私の將來の幸運の始まりであるかと考へまして、非常に自ら喜んで居る次第であります、何うぞ不肖を見捨てず將來永く御教訓の程を願ひたいのであります、聊か本會に出席の辭として一言陳べた次第であります。(拍手)

小 谷 栗 村 君

私は、外人の日本女子觀を紹介し度いと思ひます。それは近着のファミリー、フレンドに載つてをつた記事です。

日本の女子は、支那其他東洋諸國の女子に比すれば、非常に立派な位置に在るけれど、我英國の女子に比すれば、大分不自由な者である、彼等は子供の時分から、舉動言語、總て柔和一點張りで訓練せられて、他人の前で大きな聲を出したり、高い響をさしたりする事を嚴禁せられて居る、そして又子供の時分から、其母が嚴密に監督して、料理法、裁縫、又育児法等、家事一切の事を教へられて居る、けれ共其成長して後の仕事は、極めて簡單である、日本の家庭には、英國の家庭のやうに、座敷に椅子、机、書棚、暖爐と云ふやうな器具がなく、富有者と雖も、極質素な生活をして居て此簡單の家の中で、日本の女子は、清潔に優美な生活を送て居る、凡世界中に、杏のやうな眼をして居る日本女子程、静かで、楽しさうで、又よく働く婦人は無いのである、

日本にては、衣服の流行が激しく變はらない、それで日本の女子は其着物を色上げしたり、縫ひなほしたりして、幾度でも着る、之を屑籠に投げ入れるのは非常な年數を経てからの後である、そして其衣服が實に働きよく出來て居て、健康的の者で、先づ謂はゞよく發達した常識的衣服である、

高等教育は女子に不必要として、まだ發達して居ない、そして日本の女子は大抵十七八歳になると、學問を止めて結婚するのであるが、結婚と共に、女子の愉快的な生活は終を告げて了ふ、英國では女子の愉快は、結婚以後に在るのに、日本では其れと反對である、

なぜなれば、日本では結婚すれば、女子は全く男子の奴隸となつてしまう、加之花嫁は單に花婿の奴隸となるのみならず、花婿の母に従て、其命令に従はねばならん、所が其養母と云ふが、大概は嫁いぢりをするので、女子は結婚後多く困難をするのである、

日本の女子は早く年をとり、早く醜くなるやうである、是は早くから結婚して家政の重荷を負はされるからであらう、

日本の女子は、其夫と共に社會に出る機會がなく、又知識上共通の趣味を持って居ないから、結婚後の幸福は、寧ろ夫と共に享くるにあるに非ずして、其子供と共に居るのに在るのです併し其子供と云つても娘であれば、其成長と共に、他人となつてしまうのである、要するに、是を我英國の女子と比較するに到底其自由、幸福の點に於て比らべ物にならない、思ふに英國の女子程、幸福な地位にある者は、ありますまい。(拍手)

* * * *

* *

演説はこれで終はつた。此の時先刻食事の際投票せられた幹事改選の結果が報告せられた。矢張り樋口、矢野、曾根の三君が再任せらるゝことに成つたといふ報告であつた。時正に十時に近いので幹事から閉會の旨を告げて三々五々相伴ふて歸途についた。